

KANTOU

かんとう



特集／2023「紙リサイクルセミナー」
六地区懇談会
委員会トピックスー安全防災委員会
支部だよりー東京都西支部・埼玉県支部

新年号

まぜないで!

ロウ引き段ボール

特徴1

一般的なダンボールより
色が濃い(濃い茶色)

特徴2

触ると
ロウ(蠟)が付く

ロウ引き
ダンボール

一般的な
ダンボール

リサイクル できません!!

※デザインは
参考です。

特徴3

輸入品のフルーツや水産加工品の段ボール
に使われていることがある(防水のため)

みほん
例

チリ産レモン 輸入ブドウ 輸入ブロッコリー アジア産 冷凍エビ

アジア産 冷凍魚 東南アジア産 苗木 などを使用されていることがある

ロウ引き段ボールは1年中出回っていますが、特に5月から11月にかけては、
輸入果物の梱包として多く出回ります。

※デザインは参考です。



ロウ引き段ボールは製紙原料ではありません。



関東製紙原料直納商工組合

年・頭・所・感

新春にあたって

皆様、新年明けましておめでとうございます。

組合員各位には、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

去年は実に様々なことが次から次と起こりました。ロシア、ウクライナの戦争が長期化する中、イスラエルとハマスの戦いが中東に火をつけて、世界経済は資源高やインフレが進行しました。日本では少子高齢化の中でようやく社会の停滞によるデフレを脱却しつつありますが、依然ゼロ金利政策は続行し為替相場は円安で推移しました。

米国と中国の対立は軍事、経済、科学技術の分野にも広がり、台湾の有事も取りざたされました。日米安保条約の下、防衛費を増額し専守防衛の枠を超えて反撃能力を有する軍事力をもつ自衛隊で備えようとしております。

一方地球温暖化が進み、猛暑や台風での災害が多発しております。

ほっとすることもありました。コロナウイルスは5年目となりやっと収束し始めて、世界中で人々の交流が始まり「経済復活」の年になりました。

製紙業界は情報通信の進歩によって紙の生産が毎年減っており、それに伴い古紙の回収も年々少なくなっております。しかし去年は古紙在庫



関東製紙原料直納商工組合
理事長
大久保 信隆

も少なく需給のバランスが取れた一年でした。

今、世の中は大きな変革期に突入しております。私どもも物流問題、雇用不足、インボイス制度、為替の変動、持ち去りの横行と諸問題が山積しております。地球温暖化対策は待ったなしです、カーボ

ンニュートラル、グリーントランスフォーメーションとエネルギー資源の高騰の問題等に積極的に対応してきました。私たちの業界は循環型社会の一員として、今後も一層、持続して力を入れていかななくてはなりません。

こんな時こそ4委員会と9支部が車の両輪となって組合活動を充実強化していただきたいと思えます。渉外広報・IT委員会には組合活動を内外に広く発信をお願いします。安全防災委員会を中心に安全作業、経営革新委員会による品質向上に取り組むことが大事です。需給委員会には適切な需給予測により、内外の需給バランスの取り組みをリードして下さい。各支部ではブロック会議を通じて品質管理責任者やリサイクルアドバイザーの指導と安全対策をお願い致します。

最後に皆様が令和6年も健康で安全な年であることを願うとともに各社の発展を祈念して年頭の挨拶と致します。

(2024年元旦)

年・頭・所・感

全原連会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。旧年中は全原連の活動に何かと御助力を賜り、誠にありがとうございました。本年も引き続き御支援下さいますよう、心より御願い申し上げます。

昨年は人口減少と少子高齢化が引き続き進み、将来に何かと不安が生じますが、いずれかの時点で増加に向かう時が必ず生ずるものと祈念しております。製紙原料としての古紙の発生も人口減少率に合わせるように減少しておりますが、デジタル化の進展がそれに拍車をかけており、紙の需要減を招き、古紙の発生量も少なくなっております。

一方、原紙等製品の値上げにより消費が落ち込み、昨年春の需給予測より製紙メーカーの古紙消費量が少なくなりました。古紙在庫も少なかったため需給バランス自体は安定していましたが、いわゆる再生産のサイクルは縮小に歯止めがかからない状況が続きました。

古紙業界においても、本年は働き方改革関連



全国製紙原料商工組合連合会
理事長
栗原 正雄

法によるドライバーの時間外労働の上限規制が設けられることで発生する「物流の2024年問題」、エネルギー高騰によるコストの上昇、雇用不足問題、円安などの為替の変動等、課題が山積しています。

しかし、いずれかの時点で必ず反転する時が来ると確信しております。それ迄辛抱しなければならぬものと思

います。古紙業界が一致協力してこれからの困難に立ち向かって行かなくてはなりません。従いまして業界として今厳に慎まなければならないものは過度な仕入競争や販売競争です。“車間”の維持に努めることがますます重要となっております。

我々の仕事はコロナ禍に言われた「エッセンシャルワーカー」として人々の生活になくならないものです。量を求め高値を出すのではなく、継続してインフラの一部であり続けられるよう本年も手をたずさえてよろしく御願い申し上げます。

かんとう No.223 目次

編集人の後記	36	新社長紹介	35	東京都中小企業団体中央会表彰式	34	支部だより	30	委員会トピックス	27	2023「紙リサイクルセミナー」	18	特集	15	六地区懇談会報告	10	三紙会定例会報告	6	関東商組理事会報告	1	年頭所感	1
--------	----	-------	----	-----------------	----	-------	----	----------	----	------------------	----	----	----	----------	----	----------	---	-----------	---	------	---



表紙写真

新春の湘南海岸。快晴の空の下には大島が右手に見えます。左手には江ノ島が近く、その向こうには三浦市があり、はるか先の南房総市、館山市が。大島の先に東京都の島嶼部が太平洋に伸びて八丈島のさらに遠くに170人の村・青島までがあります。相模湾を巡ると、日本が自然の豊かな緑の島々との四季折々の素敵な海洋国家だと知ります。

渉外広報委員会 相談役 須長利行

年・頭・所・感

令和6年の新年を迎え、謹んでお喜び申し上げます。また、平素より経済産業行政に対する深いご理解と格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

去年は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行され、社会経済活動の正常化が進みつつある一方で、物価高騰や人手不足の影響等により、依然として厳しい状況にあります。紙・パルプ産業においても、原料や部素材等の供給途絶やエネルギー価格の高騰など、様々な面で引き続き影響を受けておられると承知しています。

また去年は、脱炭素社会の実現に向け、日本の経済・社会、産業構造のグリーン・トランスフォーメーション（GX）の議論が一段と加速しました。化学・セメント・紙パルプ等をはじめとする素材産業は、我々の身の回りにある多様な製品の素材を供給することで社会経済を下支えする基幹産業であり、また、これら素材産業が生み出す素材は、それ自体が日本の競争力の源泉ともいえます。他方で、素材産業は、生産プロセスにおいて大量の電気や熱を消費するエネルギー多消費産業でもあります。GXの実現は容易ではありませんが、官民が連携をしながら、2050年カーボンニュートラル実現をチャンスに変えていくことは、日本の製造業の将来に向けて不可欠な取組だと認識しています。

昨年12月には、「GX実行会議」において「分野別投資戦略」が取りまとめられました。ここでは、CO₂排出削減を効果的・効率的に実現す



経済産業省 製造産業局
素材産業課長
土屋 博史

る技術のうち、特に産業競争力強化・経済成長に効果の高いものに対して、GX経済移行債を活用した「投資促進策」を講じていくこととしております。GX投資に果敢に取り組む素材産業含む事業者に対し、先行投資支援を行うとともに、削減効果等のGX価値の見える化や、CO₂排出削減のインセンティブ設計などの

グリーン市場の創出に取り組むことで、既存市場で利益を上げながら、同時にグリーン市場を開拓していくことを目指してまいります。

さらに、来年は2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）が開催されます。本万博では、「いのち」をテーマに掲げ、世界が一つの「場」に集う機会となります。本万博を契機として世界の多様な価値観が交流しあい、新たなつながりや創造を促進し、世界的な危機を乗り越え、一人一人のいのちを守り、いのちの在り方、生き方を見つめ直すことで、未来への希望を世界に示すことを目指してまいります。紙・パルプ業界の皆様におかれましてもぜひ積極的に関心いただければと思います。

新型コロナウイルス感染症を乗り越えた先の新たな時代に向け、経済産業省としては、これまでに述べたような様々な施策を総動員し、業界の皆様とも連携しながら、素材産業の成長のために全力を尽くしていく所存です。この新しい時代を迎えるにあたって、皆様の御健康と御多幸を、そして紙・パルプ産業の更なる発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

年・頭・所・感

2024年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行したことに伴い、国民生活が正常化へと動き出す一方、コロナ後の新常态への対応を社会全体が模索する1年となりました。また、米国経済の底堅さに比べ中国・欧州の景気停滞が続く世界経済の2極化が進展したこと、さらにロシア・ウクライナ戦争の長期化、イスラエル・パレスチナ（ガザ）紛争の再燃等、地政学上のリスクが顕在化する1年ともなりました。

我が国経済は、インバウンド需要の回復や賃上げ等によりサービス業を中心に緩やかな回復を見せている一方で、物価高や海外経済減速などの押し下げ要因から、年後半には回復に一服感が見られる状況となっています。本年については、高めの賃上げが続くと予想されることでの個人消費の伸びに加え、設備投資も、デジタル化・サプライチェーン強靱化・人手不足対応など構造的な課題解決に向け、拡大傾向が続く見通しであり、緩やかながらも成長が期待されております。

こうした経済情勢の下、当産業を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。2023年の紙・板紙の生産、出荷はともに前年比マイナスとなりました。コロナ前の水準に比べてもグラフィック用紙、パッケージング用紙とも下回り、衛生用紙もほぼ伸びのない状況となっています。グラフィック用紙については、構造的要因に加え、全品種に亘った価格改定によるユーザーの使用量の減少等がマイナス傾向に拍車を掛けることになっております。パッケージング用紙、衛生用紙もインバウンドの回復における人流増での効果が期待されたものの、諸物価高騰による消費者の生活防衛意識の高まりから個人消費が減速していることを主要因として、年初の需要予測を下回って推移しています。

収益上は、資源価格の高騰が一服したこと、一昨年から実施された各品種の価格改定が浸透した結果、販売数量の減少を補い全体的には増収・増益傾向で推移していますが、決して満足できる水準にはなく、ようやく水面上に戻ってきたという印象に過ぎません。物価高騰が続いている他、円安の定着、主要国経済の停滞、地政学リスクの高まりによる燃料価格高騰への懸念等、決して予断を許さない状況にあると認識しております。会員各社にあっては、それぞれが持つ強みをより活かしていくための生産体制の再構築、再生産可能な製品価格の維持、海外の成長市場の需要取り込み等を加速させることにより、原燃料価格や為替の動向等の外的要因に左右されない骨太の経営基盤を創出していく必要があると



日本製紙連合会
会長
加来 正年

考えています。

日本製紙連合会といたしましては、このような会員企業の懸命な経営努力が結実し、持続可能な発展が図られるよう、事業環境を整備し紙パルプ産業の産業価値・評価を高めていくことが重要だと考えています。

その中で最重要と位置付けるのは、世界的な気候変動問題への対応としての温暖化対策です。日本製紙連合会では2030年度目標、そして2050年のカーボンニュートラル（CN）を目指す計画・ビジョンを掲げ推進して

いますが、最終的なCNの実現には様々なハードルがあると考えています。業界及び各社が努力していくことは前提ですが、例えば水素・アンモニアといった新燃料の大型商用化、炭素貯留・利用技術の実装化などは、それぞれの分野での環境整備の進捗を待たなければならず、より産業間の主体的連携を深め取り組んでいかなければならないと感じています。また、昨年5月、いわゆる「GX推進基本法」が成立し、政府によるCNに向けた各種施策と支援の形が明確化されました。年末には分野別投資戦略も公表され、紙パルプ産業での投資戦略のイメージも醸成されたところでありますので、今後は業界として如何にCNに向けた動きを加速させていくかが課題となってまいります。

また、昨年4月には、「日本製紙連合会サステナビリティ基本原則」を策定いたしました。SDGsが目指す2030年はもとより、その先の製紙産業及び会員企業が持続可能かつ成長を続けて事業を展開するための行動指針を改めて内外に表明したものです。日本製紙連合会が事業活動を実践していくに当たっての基本的原則でもあり、温暖化対策の推進は地球環境の保全と再生を具現化するものとなり、待たなしの対応を迫られる物流問題や取引適正化の推進は、ステークホルダー・サプライチェーンとの連携・協働を図り、死亡災害ゼロを目指す安全対策は従業員安全・衛生を守りさらには人権の尊重を含めた取り組みに通じるものとなります。さらに、日本製紙連合会の基本的業務となる需給動向の的確な把握と公表の基礎となる統計業務は、各企業が責任ある供給責任を果たしていくための基盤となる事業であります。

業界を取り巻く環境が大きく変化していく中において、その他様々な課題が山積しているところではありますが、日本製紙連合会といたしましては、その課題克服に向けて2024年も積極的な活動を展開してまいります。

最後になりますが、関係各位の今年1年のご健勝、ご発展を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

年・頭・所・感

令和6年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。年頭に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年の我が国経済を振り返りますと、昨年5月に、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことにより、社会経済活動の正常化が進み、サービス消費を中心に回復の動きがみられております。

他方、長期化しているロシアによるウクライナ侵攻に加え、昨年10月に勃発した中東紛争は、世界のエネルギー生産にとって重要な地域で新たな紛争が起きたことから、原油価格を注視していく必要があるなど、世界的な景気後退が懸念される状況です。

かかる状況において、岸田政権は、昨年11月に令和5年度補正予算における一般会計追加額が13.1兆円となるデフレ完全脱却のための総合経済対策を策定し、GDPを1.2%押し上げることや消費者物価指数を1.0%引き下げることなどを目指した財政政策を閣議決定したところです。

さて、古紙を取り巻く状況を見ますと、近年、古紙の発生が低調に推移し、古紙の回収量が減少傾向にあります。現に、昨年1月～9月までの古紙回収量は、約1,290万トンにとどまり、一昨年同期比96.2%、約52万トン減少しております。

このことは、製紙業界や古紙業界における古紙の需給や在庫量等に、少なからず影響を及ぼしている状況にあります。

当センターといたしましても、我が国の紙リサイクルシステムの維持・向上を目指し、需給両業界と常に意見交換をしつつ、需給の安定化を図ってまいりたいと考えております。

ご高承のとおり、我が国の令和5年1月～9月までの古紙回収率は81.7%、古紙利用率は66.5%と高いレベルを維持しています。

一方、資源有効利用促進法に基づく古紙利用率の目標は、令和7年度において65%とされており、既に達成水準となっておりますが、私ども、センターとしましては、古紙回収量が低調に推移している状況に鑑み、これまで以上に、未回収古紙の掘り起こし等の取り組みを促進することが重要であります。

こうした中、当センターは本年、関係省庁や自治体、需給両業界などの関係者の皆様のご協力もあって、創立50周年という大きな節目を迎



公益財団法人古紙再生促進センター
代表理事
長谷川 一郎

えます。この50周年を一つの区切りとして、新たな50年へ向けて、当センターは次の取り組みを展開してまいります。

一つ目は、コロナ禍以降における事業運営であります。

当センターはウイズコロナにおける事業展開を模索する中で、従来の対面型中心の運営から、オンライン型とのハイブリッド形式を通じた事業運営を心掛けてまいりました。中でも、広報・啓発事業において、紙リサイクルセミナーにおけるライブ及び録画配信

を始め、小学生向けのオンライン出前授業や自治体担当者を対象としたオンラインセミナー等を通じて、情報発信先の多様化に資するなど、新たなニーズに繋がるケースが生じてきており、今後も柔軟かつ効率的な事業運営を展開してまいります。

二つ目は、更なる持続的な社会作りへの貢献を認識していくことであります。

資源の有効利用や廃棄物の減量化といった循環型社会の形成に重要な役割を果たしている紙リサイクルシステムが、持続可能な社会を目指す世界共通の目標であるSDGsという大きな枠組みに直結していることは言うまでもありません。このように、紙リサイクルシステムの維持や発展によって、持続的な社会作りに貢献していることを常に認識し、各種事業を進めていくことが極めて大切なことと考えております。

三つ目は、中長期的課題整理であります。

一昨年来、中長期課題整理に向けた検討を開始しておりますが、紙リサイクルに関わる様々なステークホルダーの方々との情報交換を行いつつ、今後の社会動向に適応する持続可能な紙リサイクルシステムの在り方や課題について、中長期をイメージした共通ビジョンや認識を構築してまいります。

本年も製紙業界、古紙業界にとって大変厳しい状況が続くかと思われませんが、需給両業界の皆様におかれましては、当センターを討議の場として活用していただき、我が国の紙リサイクルの維持・発展に向けて叡智を結集していただきたいと存じます。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして、希望に満ちた明るい年になりますよう心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

関東商組 理事会報告

令和5年度 第4回 理事会報告

開催：令和5年9月21日(木)
15:00～16:50
組合会議室

出席状況：出席…17名(理事15名、監事2名)

1. 古紙持ち去り関係

GPS 追跡調査実施状況

正規ルート2件。(7月理事会から本理事会の間)

(記載一部省略)

2. 各支部市況報

(記載省略)

3. 段ボール古紙需給調整事業の実施状況

10月までの台湾向け段ボール古紙の出荷先が提示され、引き続きの協力をお願いした。

4. 物流の2024年問題に関する取組

「人手不足」、「時間外労働の削減」、「カーボンニュートラルへの対応」の対策案をまとめ、全原連へ提出する。他に思い付く方は事務局まで連絡ください。

5. 段ボール古紙需給調整事業の停止及び国際マーケット調査事業の再開

段ボール古紙需給調整事業を令和5年内で停止、停止後の令和6年から国際マーケット調査事業を再開することが承認された。取扱品目は段ボール古紙、目標数量は1,000t。

6. 各会議報告

(1) 総務財務委員会(9月14日開催)

順調に推移している。委員会活動が活発になっていることが反映されている。

(2) 正副理事長会(9月14日開催)

(3) 総合運営委員会(9月14日開催)

7. 近代化推進委員会報告

(1) 経営革新委員会(8月10日・9月11日開催)

- ・段ボール原紙需給速報、古紙輸出実績の資料を基に意見交換を行った。
- ・昨年後半からメーカー減産継続だが古紙需給はタイト感、発生減少が大きい。
- ・新規古紙リサイクルアドバイザー試験10月10日開催分は満席。11日に追加開催、さらに追加を検討する。今後の運営のあり方及び試験問題について見直しを検討していく。

(2) 安全防災委員会(8月25日開催)

- ・秋季リーフレットを9月末に配布予定。
- ・9/20に近畿商組の紙朋会と開催。次年間ポスターの作成と安全に関する意見交換を行う。

(3) 需給委員会(7月26日・8月24日開催)

- ・発生減が続き在庫が少ない中、高値を下げられていない地域が多い。
- ・段ボール出荷を伴う見積もり合わせを再開する予定。適正なルールの叩き台を作成し、次回会議で最終案を纏める。段ボール古紙需給調整事業を需給委員会へシフトしていく方向性を理事会に諮り、承認された後に再開する。

(4) 三紙会(7月24日・8月29日開催)

	6月	
	前月比	前年比
段ボール	99.8%	98.1%
新聞	97.0%	90.2%
雑誌	92.5%	95.5%

	7月	
	前月比	前年比
段ボール	101.8%	97.1%
新聞	97.7%	90.2%
雑誌	96.7%	96.3%

(5) 渉外広報・IT 委員会

- ・かんとく編集部会 (9月19日開催)
- かんとく 222 号の校正会議を行った。
- 10月20日発行予定。

8. その他

各種統計資料

1. 関東商組 32 社古紙在庫月別報告書 (2023年7・8月)
2. 全原連 各地区古紙在庫月別報告書 (2023年7・8月)
3. 国内における段ボール古紙量の月別増減表 (2023年6月)
4. 財務貿易統計 古紙輸出まとめ (2023年7月)
5. 日本製紙連合会 紙・板紙需給速報 (2023年7月)
6. 日本製紙連合会 紙品種別生産・出荷・在庫高表 [暫定] (2023年7月)
7. 日立・千葉・東京・川崎・横浜合計通関実績 (2023年7月)

◎次回開催：令和5年10月20日(金) 15:00～
場所 組合会議室

令和5年度 第5回 理事会報告

開 催：令和5年10月20日(金)

15:00～16:30

於 組合会議室

出席状況：出席…17名(理事15名、監事2名)

1. 古紙持ち去り関係

GPS 追跡調査実施状況

正規ルート2件。(9月理事会から本理事会の間)

(記載一部省略)

2. 各支部市報告

(記載省略)

3. 段ボール古紙需給調整事業の実施状況

12月までの台湾向け段ボール古紙の出荷先が提示され、引き続きの協力をお願いした。

4. 古紙リサイクルアドバイザー認定申請

下記の通り承認された。

- ・新規合格者：24社75名

5. 各会議報告

(1) 総務財務委員会 (10月13日開催)

インボイスについて実務的なことを中心に説明会の開催を予定している。

日時等が決定したら速やかに連絡いたします。

(2) 正副理事長会 (10月13日開催)

(3) 総合運営委員会 (10月13日開催)

6. 近代化推進委員会報告

(1) 経営革新委員会 (10月10日開催)

・段ボール原紙需給速報、古紙輸出実績の資料を基に意見交換を行った。

・段ボール古紙生産は昨年11月から10か月連続前年割れ、メーカー減産継続だが古紙需給はタイト感、発生減少が大きい。雑誌の発生減が著しく、家庭紙メーカーの消費が安定している。

・段ボールの薄物化が今年は顕著に出ている。

・古紙リサイクルアドバイザー試験を2日間実施した。

(2) 安全防災委員会 (9月20日開催)

9/20に近畿商組の紙朋会と開催。年間ポスターのキャッチフレーズを決定した。ポスターの発送は2024年4月予定。

(3) 需給委員会 (9月27日開催)

・発生減が続き在庫が少ない中、高値を下げきれていない地域が多い。

・資源価格の高騰や円安、物価高による買い控えやインバウンドの不発など内需を妨げる要因が多くあり、需給予測が異なる結果となった。製紙メーカーの下期の古紙消費量が計画よりも落ちた場合は予測の根拠が参考にならなくなり、予測が難しい状況になっている。

(4) 三紙会 (9月25日開催)

	8月	
	前月比	前年比
段ボール	98.3%	96.9%
新聞	97.2%	91.1%
雑誌	97.2%	94.2%

11/16 六地区懇談会が近畿にて開催。

(5) 渉外広報・IT委員会

かんとう編集部会

10/20に222号の発送を行った。

7. その他

各種統計資料

1. 関東商組 32社古紙在庫月別報告書 (2023年9月)
2. 全原連 各地区古紙在庫月別報告書 (2023年9月)
3. 国内における段ボール古紙量の月別増減表 (2023年8月)
4. 財務貿易統計 古紙輸出まとめ (2023年8月)
5. 日立・千葉・東京・川崎・横浜合計通関実績 (2023年8月)

◎次回開催：令和5年11月29日(水) 15:00～
場所 組合会議室

令和5年度 第6回 理事会報告

開催：令和5年11月29日(水)

15:00～16:45

於 組合会議室

出席状況：出席…20名 (理事18名、監事2名)

1. 古紙持ち去り関係

GPS追跡調査実施状況

正規ルート3件。(10月理事会から本理事会の間)

(記載一部省略)

2. 各支部市報告

(記載省略)

3. 段ボール古紙需給調整事業の実施状況

12月までの台湾向け段ボール古紙の出荷先

が提示され、引き続きの協力をお願いした。

4. 新年賀詞交歓会の開催

下記の内容で開催することが承認された。

日時：令和6年1月18日(木)

17:00～19:00

場所：アートホテル日暮里ラングウッド

次第、来賓名簿等が提示され承認された。

5. 役員の改選

推薦委員、役員推薦枠案が提示され承認された。

推薦委員に選任された方は「役員候補被推薦者名簿」を2/9までに事務局へ提出することとした。

6. 各会議報告

(1) 総務財務委員会 (11月17日開催)

実務的なことを中心としたインボイス講習会を新年会の同日にアートホテル日暮里ラングウッドで開催する。12/22まで出欠と共に質問を添えて返送してほしい。

(2) 正副理事長会 (11月17日開催)

(3) 総合運営委員会 (11月17日開催)

7. 近代化推進委員会報告

(1) 経営革新委員会 (11月9日開催)

古紙リサイクルアドバイザー試験、品質管理責任者について下記の通り検討している。

- ・リサイクルアドバイザー及び品質管理責任者の統一を検討していく。
- ・テストをオンライン上で実施できるようにシステムを構築していく。
- ・新しく問題を作成する。

(2) 安全防災委員会 (10月30日開催)

- ・防火ポスターの配布を11月下旬に行った。
- ・安全衛生推進者養成講座を3/8、22の2日間に分けて開催する。
- ・安全DVDのチャプター分割を行い、オンライン上で視聴できるように進めている。

(3) 需給委員会 (10月26日開催)

国際マーケット調査事業再開に向けて現在見積み合わせに参加している商社8社へ、引き続き協力していただけるかを確認していく。また、ルール等の細部を詰めて1月からの実施を計画している。春のメーカー予測より100t以上消費が落ちている、回収量は横ばいのため需給差異も100t以上増える見通し。

(4) 三紙会 (10月27日・11月27日開催)

	9月	
	前月比	前年比
段ボール	99.3%	96.9%
新聞	98.6%	89.6%
雑誌	98.7%	94.8%

	10月	
	前月比	前年比
段ボール	100.7%	98.3%
新聞	104.5%	92.6%
雑誌	104.8%	96.5%

11/16六地区懇談会を近畿にて開催した。

(5) 渉外広報・IT委員会

8. その他

各種統計資料

1. 関東商組 32社古紙在庫月別報告書 (2023年10月)
2. 全原連 各地区古紙在庫月別報告書 (2023年10月)
3. 国内における段ボール古紙量の月別増減表 (2023年9月)
4. 財務貿易統計 古紙輸出まとめ (2023年9月))
5. 日立・千葉・東京・川崎・横浜合計通関実績 (2023年10月)

◎次回開催：令和5年12月22日(金) 15:00～
場所 組合会議室

二十一世紀の環境を守る。
信頼のパートナー。
古紙用ベラー番線。



環境にやさしい
ワンダフル21世紀

- ・最良の品質
- ・豊富な在庫
- ・万全なサービス

株式会社 櫻井

http://www.kk-sakurai.com/
〒116-0014 東京都荒川区東日暮里4-13-12
TEL 03-3803-3511
FAX 03-3807-8153

標準値	コイル 1巻	コイル 1巻	1打・ 1巻	1打・ 1巻
φ12 25%	50	100	500	1,000
φ10 32%	50	100	500	1,000
φ8 40%	50	100	500	1,000

ベラー番線

最良の品質・防錆OK
—トラブル、ロスが少ない—
50K・100K・500K・1000K

坂野興業株式会社

東京本社 TEL03-3718-7311 FAX03-3724-8170
浦安営業所 TEL0473-54-6531 FAX0473-51-5201
静岡営業所 TEL054-624-1101 FAX054-624-6704

三 紙 会 報 告

令和5年度 8月 定例会

日 時：令和5年8月29日(火)

15時30分～17時00分

場 所：関東製紙原料直納商工組合 会議室

幹 事：島田 秀彦・(株)工藤商店

足立 進・王子齋藤紙業(株)

報告者：足立 進・王子齋藤紙業(株)

【令和5年7月

裾物主要三品仕入実績報告 (34社)】

[段ボール] 前月比 101.8% 前年比 97.1%

[新聞] 前月比 97.7% 前年比 90.2%

[雑誌] 前月比 96.7% 前年比 96.3%

[総括] 前月比については季節的要因もあるが、古紙の発生は低調が続き、三品共に前年割れとなった。

【ブロック別仕入平均単価報告】

○各地区発表

平均単価：段ボール…9.86円、新聞：12.42円、
雑誌：4.96円

【各委員会活動報告】

●業務委員会：

(1) パルプ市況報告

[NBKP] \$ 価格 800 前月比 ±0

[LBKP] \$ 価格 615～665 前月比 ±0

〈NBKP〉3ヶ月ぶりに下げ止まり、価格下落に一服感がでている。一方、欧米マーケットの需要は引き続き弱い。北米マーケットではカナダBC州におけるチップ不足を背景とした減産の動きが続いているにも関わらず、需要不振が供給の減少以上に価格を下押ししてい

る。需要不振と低価格の現状はNBKPの主要生産地域であるカナダや北欧サプライヤーの休転に拍車をかけており、休転の延長を発表するサプライヤーが散見されている。中国での価格推移は足元では欧米地区と比較して安定しているが、需要は低迷しており先行きは不透明となっている。

〈LBKP〉中国ではパルプ・製紙一貫メーカーが自社でのパルプ生産を中断し、割安な輸入パルプを購入しており、需要は改善されている。そのため、中国では小幅ではあるものの価格が上昇している。一方、中国からの需要が減った広葉樹チップの価格は軟化している。そのため、再び中国の一貫メーカーがチップからのパルプ生産を増やすことも考えられるため、今後もLBKP価格が強含みで推移するかどうかについては不透明である。一方、欧米マーケットでは価格の軟化傾向が続いているため、主要生産地域であるブラジルのサプライヤーは中国への出荷を増やしている。

(2) 上物市況報告

[白板向け] インバウンド需要の期待感はあるものの、消費がモノからサービスへ移っている模様であり、需要の高まりは見られない。メーカー在庫も高水準となっており減産を継続している。

一方で中国の訪日団体旅行解禁による需要が急拡大する可能性もあり、急激な変化に要注意。

[家庭紙向け] 足元はインフレによる購買意欲低下の影響が大きいだが、中国の訪問団体旅行解禁によるインバウンド需要の急拡大の可能性もあり、急激な変化に注意が必要。

メーカーの製品在庫は依然高水準を維持していて生産は強くないが、産業古紙の発生は減少し続けており、古紙のタイト感は長期的に継続されると思われる。

●研究委員会：9月新聞・チラシ重量調査依頼

●財務委員会：特に無し

令和5年度 10月 定例会

日 時：令和5年10月27日(金)

15時30分～17時00分

場 所：関東製紙原料直納商工組合 会議室

幹 事：中村 正美・(株)共益商会

山口 直・(株)國光

報告者：井出 一之・井出紙業(株)

.....

【令和5年9月

裾物主要三品仕入実績報告 (34社)】

[段ボール] 前月比 99.3% 前年比 96.9%

[新聞] 前月比 98.6% 前年比 89.6%

[雑誌] 前月比 98.7% 前年比 94.8%

【ブロック別仕入平均単価報告】

○各地区発表

平均単価：段ボール…9.76円、新聞：12.03円、
雑誌：4.58円

【各委員会活動報告】

●業務委員会：

(1) パルプ市況報告

[NBKP] \$ 価格 800 前月比 ±0

[LBKP] \$ 価格 635～685 前月比 +20

[市況動向] 中国ではLBKPを中心に価格の上昇傾向が続いており、9月はLBKPだけでなく、NBKPも価格が上昇した。中国ではパルプ価格の上昇を印刷筆記用紙等へ価格転嫁する動きが出てきている。印刷筆記用紙在庫を補充する動きもあり、パルプの引きは強い。中国マーケットにおける旺盛な購買意欲は、欧米マーケットにも影響を及ぼし、9月は欧米マーケットでもパルプ価格が上昇した。〈NBKP〉需要は依然として低調だが、主要生産国であるカナダでは、木材チップ不足、需要不振、低価格等に起因する生産調整が続いている。北欧のサプライヤーも同様に生産調整を行っており、世界的に需給がタイトになっている。上海先物市場では、8月初旬から9

月下旬にかけて価格が\$90程上昇し、中国での市況上昇要因の一つになった。日本向けについても10月積みは価格が上昇すると考えられる。

〈LBKP〉中国では、価格上昇が続くものの依然として安価なパルプを使って家庭紙を増産する動きが強く、欧米マーケットでも家庭紙は比較的好調な状況を維持している。中国では印刷筆記用紙の需要も高まっており、購買意欲が強まっている。ヨーロッパマーケットでも印刷筆記用紙需要の低迷は底打ちしたとみられ、需要改善の兆しが見え始めている。日本向けについても、10月積みは引き続き価格が上昇すると考えられる。

(2) 上物市況報告

[全体の状況] パルプ市況は、家庭紙を除いた紙需要は相変わらず低迷を続けており、需給が緩んでいる状況。そのため、欧米マーケットでは、NBKP・LBKPともに未だ価格が軟化。主要生産国であるカナダでは、アメリカにおける建築需要減少の影響を受け、建築端材に由来する針葉樹チップの供給減少の状況が続いており、パルプの生産が絞られている。木材チップ不足、需要不振、低価格等に伴い、休転するサプライヤーが散見されており、9月初旬にもカナダのサプライヤーが1年以上に及ぶ工場休転を発表。需給バランスや市況動向は先行き不透明感が増している。引き続きパルプの価格次第では上物古紙の価格に影響を及ぼす可能性もあり、注視が必要。

[家庭紙] インフレによる購買意欲低下の影響が大きく、製品販売は良くないが、秋需・冬需に向け各社増産体制となっている。中国の訪日団体旅行解禁によるインバウンド需要が期待されているが、処理水の問題でキャンセルが多発していることもあり、急激な変動に注意が必要。

一方、依然として産業古紙の発生は非常に悪く、タイト感が強まっている状況。

[白板] 家庭紙同様インフレによる購買意欲低下

により、製品の動きは良くない。また、インバウンド期待も需要がモノからサービスに移っている模様であり、結果白板各社は減産を継続。

●研究委員会：2023年9月度の新聞・チラシ重量調査の結果報告

2013年9月度の調査結果と比べ、読売新聞71%/朝日新聞55%/日経新聞93%という状況

●財務委員会：令和4年度 原価構成比調査結果報告

●広報委員会：かんとぅ 三紙会ツイート執筆の協力依頼

次回の三紙会は【11月27日(月)15時30分～】とする。活動内容の予定は以下の通り。

- 裾物三品仕入平均単価報告
- ブロック別仕入平均単価報告
- 各委員会活動報告

令和5年度 11月 定例会

日 時：令和5年11月27日(月)
15時30分～17時00分

場 所：関東製紙原料直納商工組合 会議室

幹 事：持永 毅・(株)三弘紙業

濃田 博康・(株)齋藤商店

報告者：金井 大輔・(株)藤川紙業

【令和5年10月

裾物主要三品仕入実績報告 (34社)】

[段ボール] 前月比 100.7% 前年比 98.3%

[新聞] 前月比 104.5% 前年比 92.6%

[雑誌] 前月比 104.8% 前年比 96.5%

[総括] 前月対比では100%を上回るが、新聞・雑誌をはじめ1件毎の数量が落ち込んでいる印象。

【ブロック別仕入平均単価報告】

○各地区発表

平均単価：段ボール…9.59円、新聞：12.05円、
雑誌：4.66円

[総括] 仕入価格に大きな変化はないが一部では高値も散見される。

【各委員会活動報告】

●業務委員会：

(1) パルプ市況報告

[NBKP] \$ 価格 840 前月比 +40

[LBKP] \$ 価格 665～715 前月比 +40

[総括] 9月に続き、中国マーケットだけではなく、欧米マーケットでも価格が上昇した。中国マーケットでは、紙製品の荷動きが持ち直しつつあり、パルプの引き合いも強い。一方、欧米マーケットでは、ティッシュ等の家庭紙については堅調を維持しているが、印刷筆記用紙需要は底打ちしたとみられているものの力強さは感じられない。中国マーケットの旺盛な需要が牽引する形で、世界的に価格は上昇トレンドに推移しているものの、下旬には中国でも購入に対して様子見の状況が出始めており、今後の価格動向には不透明感がある。

〈NBKP〉中国での価格上昇の影響を受け、4か月ぶりに価格上昇に転じた。北米などではチップ不足等による生産調整やコストの高止まり等により、サプライヤーの収益が厳しくなっている。一方、北欧サプライヤーの新工場稼働や一部ユーザーがLBKPへ樹種変更をしている等により、供給増・需要減の側面もある。中国からの引きが堅調であるために、世界的に価格は上昇トレンドとなっているが、価格動向には引き続き注視する必要がある。

〈LBKP〉中国の家庭紙メーカーは、パルプ価格が未だ比較的安価であることから、製品輸出を増やしており、稼働率が高い。これがパルプ需要を生み、価格の上昇トレンドを支えている。また、欧米でも家庭紙向けのパルプ需要は堅調に推移しており、一部のユーザーはレシピを変更し、LBKPの使用割合を増やしている。一方、中国国内のトレーダーの在庫品価格が上昇した

等の影響により、中小家庭紙メーカーの稼働率が下旬以降下がりはじめたという情報もあり、今後の価格動向には不透明感が出始めている。

(2) 上物市況報告

[全体の状況] 日本の紙・板紙の生産量は急激に悪くなってきている。特にパッケージの減少が影響しており、原因として①食品ロス対策 ②通販の伸び悩み ③人口の減少などがあげられ、インバウンドでどこまで補えるか?がカギとなる。縮小均衡が進む中、不安要素が多い。

[家庭紙] 物価上昇による購買意欲の低下もあり、製品の動きは低調に推移。しかし、これからの需要期を控え各社増産体制へ移行する模様。10月の訪日外国人が250万人強となり、新型コロナウイルス感染拡大後に初めて2019年同月を超え、徐々にインバウンド需要が高まりつつある。一方、景気の鈍化により大きく操業を止める印刷・製本工場が多く、産業古紙の発生は大幅に減少しており、生産動向に関係なくタイト感が継続していくものと思

われる。

[白板] 引続き製品の動きは良くないが、家庭紙同様インバウンド需要が高まりつつある。生産に使用する上物・ミックス系古紙の引き合いが強くなる可能性がある。

- 研究委員会：① 2023年12月度の新聞・チラシ重量調査の協力依頼
② 2024年3月 移動委員会に関する説明
- 広報委員会：かんとう 三紙会ツイート執筆の協力依頼
- その他： 六地区懇談会（近畿）の報告

次回の三紙会は【12月21日(木)15時30分～】とする。活動内容の予定は以下の通り。

- 裾物三品仕入実績報告
- ブロック別仕入平均単価報告
- 各委員会報告

* 定例会後に17:30より忘年会を中華料亭「翠鳳」で行う。

新聞雑誌選別、さらに革新。

紐切装置付選別コンベयरライン

ヤードスペースに合わせ、自由にレイアウト。

営業品目

- 各種破袋装置
- 古紙梱包機投入用コンベयर
- 空カン・空ビン選別コンベयरライン
- 各種シュレッダー投入用コンベयर
- 再生資源産業用各種コンベयर
- 各種省力機械設計・制作

 **株式会社 拓己技研**

〒444-0937 愛知県岡崎市島坂町字川田5番地3
TEL (0564)64-3692 FAX (0564)64-3693

デジタルロードセル式トラックスケール

高精度・低価格・短納期 5t～100t 各種計量管理システム

鎌長製衡株式会社

<http://www.kamacho.co.jp>

本社・工場	TEL(087)845-1111(代)	FAX(087)845-7442
東京支店	TEL(03)3243-2080(代)	FAX(03)3243-2081
大阪支店	TEL(06)6339-0131(代)	FAX(06)6339-0139
名古屋支店	TEL(052)586-1451(代)	FAX(052)586-1467
九州支店	TEL(092)281-5328(代)	FAX(092)281-3822
中四国支店	TEL(087)845-1140(代)	FAX(087)845-7442

六地区懇談会報告



開催日：令和5年11月16日(木)

14時00分～17時00分

会場：鳥よし 本店

出席者：[三紙会] 7名、[中部・中部ファイバークラブ] 10名、[中国・紙縁会] 6名、
[四国・紙志乃会] 6名、[九州・紙藍会] 7名、[オブザーバー] 東北地区
(株)高良 高橋 秀行氏

[開催地 近畿・紙朋会] 12名

報告者：井出紙業(株) 井出 一之

紙朋会 仲氏の司会により、六地区懇談会が始まった。冒頭オブザーバー出席の高橋氏から今回参加するに至った経緯を含め挨拶があった。現在、「六地区」という枠組みでの懇談会開催ではあるが、将来的に全国へこの輪が拡がり、「七

地区、八地区・・・」での開催ができる礎になることを期待したい。

開会にあたり、紙朋会 塩瀬会長から「お忙しい中、大阪の地にお集まりいただき、紙朋会一同感謝申し上げます。大阪では5年ぶりの開催となります。ざっくばらんに情報交換をして頂きたいと思います。」との挨拶があった。

次第に従い、各地区の市況報告・輸出状況などの報告があったが、いずれの地区も古紙の発生は低調であり、メーカー側の減産も続き、購買意欲も低い状況であり、発生減により輸出余力が落ち込んでいるとの報告があった。

フリートークでは、中国・紙縁会から「会員の定例会等への参加が少なくなっている状況で、組合活動を活性化するためにどのような対策を行っているのか」との質問があり、「いろいろ手を尽くしてはいるが、来る人しか来ない



【懇談会】開会の挨拶 塩瀬会長



【次回開催地】紙縁会 田中会長

(九州)」「青年部の定年を50歳から55歳に引き上げた(中部)」「懇親会を行っている(近畿)」「懇親会などの費用の一部を会で負担している(関東)」などの意見が出された。

また、人手不足対策として、(株)松本光春商店さんから「“どんなことを行っている会社か”を分かってもらえるようにHPを作り直し、情報発信ツールとしたことで、募集コストも下がり、人も集まるようになった」とのアドバイスがあった。

古紙が減少し、産業廃棄物や一般廃棄物などの売上規模も減少している中で、売上を拡大するために「軽貨物の運送」「解体・遺品整理などの分野への進出」「他業種のフランチャイズ加盟」などの意見が出された。

懇談会の最後に、元プロ野球選手の広澤克実氏による「私の野球人生 ～野村・長嶋・星野

監督に学んだこと～」と題し、広澤氏が心から慕う3人の監督の指導・育成方法を基に講演会が開催された。

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の3人の戦国武将の性格を表した「鳴かぬなら〇〇ホトトギス」という句を広澤氏の私見に基づき、以下のように3人の監督の育成方法に置き換えた。

野村監督「鳴かぬなら 頭を使え ホトトギス」

「ホトトギスが鳴かないのは環境が整っていないからであり、環境を整えばホトトギスは鳴く。生態系を理解しなければ、環境は作れない。ホトトギスのことよく調べる(データをとる)ことが大事。どうしたら監督が使いたくなるような選手になれるか、よく頭を使って考えなさい。“学ぶ”の語源は“まねる(技を盗む)”であり、まねることで基本が出来上がる。」ということ野村監督から学んだ。



六地区懇談会 各地区代表者





【講演会】講師 広澤克実氏

長嶋監督 「鳴かぬなら 鳴くのと替えてよ ホトトギス」

「どこかで鳴いているホトトギスをここに連れてくれば良い。シンプル イズ ベスト。大事な自分の家族を守るためには、全国にいるファンを元気にすることが第一である。」と考える監督さんであり、プロフェッショナルとしてのモチベーションを教わった。

星野監督 「鳴かぬなら 気持ちで鳴かせるホトトギス」

「プロとプロとの戦いで最後に勝負を決めるのは“心（気持ち）”だ！」という迫力ある監督であったが、一番学んだことは「“言葉”を巧みに使い分ける。表現力が乏しければ、人には伝わ



講師の広澤克実さんと三紙会メンバー

らない。」ということ。

約1時間、ユーモアを交えながらご自身の体験などを赤裸々にお話しいただき、指導する立場の心構えなどを再認識することができました。

懇談会終了後、同所にて懇親会が開催され、紙朋会 玉木氏の乾杯発声で懇親会がスタートしました。“食い倒れの街・大阪”を表すようなおいしい料理に舌鼓を打ちながら、お酒を交わしつつ、懇談会では伝えきれなかった情報交換などを行い、より一層親交を深め合うことができました。各地区代表の方々の挨拶の後、最後は次回開催地区である中国・紙縁会 田中会長の中締めで懇親会はお開きとなりました。

省エネเบอร์ラー誕生
SW770 HEシリーズ
 HIGH SPEED, HIGH PRESSURE
 AND ENERGY SAVING

契約電力DOWN!!
 消費電力
25%
 以上削減!!
 消費電力DOWN!!

昭 和
 株式会社 昭 和
 本社 〒134-0091 東京都江戸川区船堀2丁目23番21号
<http://www.showa-press.co.jp> 電話 03-3689-0303

WorkVision
 Creating Value for The Future

お問い合わせ先
 ビジネスソリューション営業第一部
 営業担当：神崎 真悟
 TEL: 03-4233-0945 FAX: 03-5463-1138
 *旧社名 東芝ソリューション販売株式会社
 2019年7月1日より社名変更となりました。

システムは「所有」から「利用」へ！

**リサイクルシステム
 クラウド版リリース**

シンプルで
即戦力！

セキュリティと
災害に強い！

サーバ購入
・管理不要！

特 集



●古紙センター「紙リサイクルセミナー」 課題をひとつ1つ克服しながら “持続可能な社会”に貢献する

～さまざまな視点から3氏が問題提起～

株式会社紙業タイムス社寄稿

去る10月12日、東京都内で、古紙再生促進センター主催による恒例の「紙リサイクルセミナー」が開催された。主催者の発表によると、参加人数は会場107名、ライブ配信視聴者が約110名だった。本年の講演者は「紙製容器包装と雑がみの一括収集の取組み～名古屋の事例」と題して石川喜一郎／愛知県古紙協同組合理事長・石川マテリアル代表取締役社長、続いて「中国段原紙市場の飽和と超生産過剰時代～今後の古紙需要への影響～」を主題に坂口健太郎／山發日本・営業部兼統括管理部長、さらに「物流の2024年問題における課題と対応」をテーマに大島弘明/NX総合研究所・常務取締役の3氏がそれぞれ講演した。

府月例経済報告で「景気は緩やかに回復している」とされたが、物価上昇などの影響に十分注意する必要がある。一方、新型コロナウイルス感染症は5類に移行し、インバウンドが回復しつつある中、今後の経済・社会活動のさらなる活性化に大いに期待したい。

ところで、わが国の本年1～7月の古紙回収率は81.6%、古紙利用率は66.6%と高いレベルを維持している。資源有効利用促進法に基づく古紙利用率の目標は2025年度までに65%としており、当センターとしては、古紙利用率がすでに達成水準にあっても、これまで以上に古紙利用率向上に向けた取組みを継続していく考えだ。具体的には、古紙品質実態調査のほか、自治体や紙リサイクル関係者に対して雑がみや禁忌品に対する、より丁寧な啓発資料の配付などにより、関係者の共通認識形成を図りつつ、諸活動を実行していきたいと考えている。

このような取組みにより、わが国の紙リサイクルシステムは、持続可能な資源の有効利用を通して、SDGsという大きな枠組みに直結していることを確認し、今後の広報活動に取り組んでいく。

さて、当センターは関係者の皆様のご協力もあって、来年の2024年に節目となる創立50周年を迎える。現在は50周年史の作成に着手しており、次の時代を見据えた中長期的な課題整理

開会挨拶

長谷川一郎 代表理事

本年は昨年までのコロナ禍における来場者数の制限を緩和し、4年ぶりに多くの方々の来場をいただき、本セミナーが開催できたことを大変嬉しく思う。

さて、本年9月の内閣



の検討を段階的に行うとともに、今後の紙リサイクルの共通ビジョン作成に努めるつもりだ。

紙製容器包装と雑がみの一括収集を始めた名古屋市

愛知県古紙協同組合 石川 喜一郎 理事長
(石川マテリアル 代表取締役社長)

愛知県古紙協同組合(古紙協)は愛知県内で古紙を扱っている38業者の組合で、行政から委託され、古紙や紙製容器包装の回収、PETボトルの選別・梱包・保管といった事業を20年以上続けている。実施地域は名古屋市および周辺の弥富市、安城市、愛西市、尾張旭市、飛島村などになる。



名古屋市は、分別の取組みの先進的都市として知られてきた。簡単にその歴史を振り返ると、同市において古紙回収が始まったのは昭和30年代で、当時は「廃品回収」と呼んだ。

その後、地域の子ども会などが廃品回収を行うようになり、やがて広域化して連合会などを結成、昭和40年頃には、集団資源回収が名古屋市全域に広がっていった。

ちなみに私が代表を務める石川マテリアルが委託事業者として始動したのは、昭和42年のことである。「チリ紙交換車」が名古屋に登場したのは昭和45年で、当社の場合、昭和47年にはすでに100台のチリ紙交換車が稼働していたことが分かっている。

さて昭和から平成にかけて、わが国の産業構造は大きく変化した。輸入が増え、海外から入ってくる廃段ボールも増えたことから古紙が余剰化して価格破壊が起きた。古紙の値段は大幅に下がり、チリ紙交換や集団資源回収が衰退してしまった。一番ひどかったのは平成10年(1998)で、古紙価格が大暴落し、メーカープライスで段ボール5円、新聞は7円、雑誌は3円まで下落した。

古紙を回収しても、保管場所がない状態になってしまったので、その年の12月にはやむなく「雑誌は各家庭内で備蓄してほしい」と呼びかけるに至った。

しかし家庭でも置き場がないわけで、雑誌は紙くずとして「燃えるごみ」に出されるようになった(当時、名古屋では紙くずは「燃えるごみ」の扱いでよかった)。

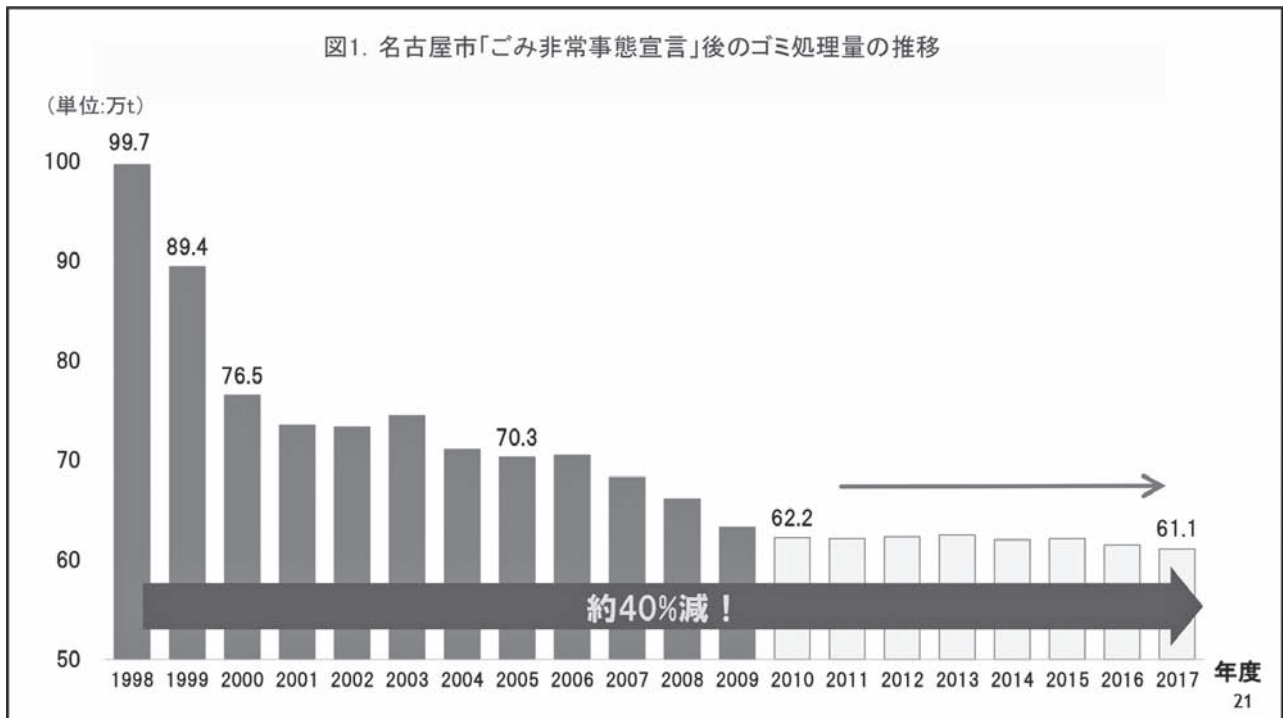
この頃、毎年増え続けてきた名古屋市のごみが、ついに年間100万tに達した。ごみの最終処分場として埋立て可能とされていた岐阜県多治見市の埋立て地も、あと2年で満杯になると試算されていたし、新たに建設を予定されていた場所は、環境保護の観点から白紙撤回になるなどして、ごみ処理をどうするかは深刻な課題となっていた。

こうした状況を受けて1999年2月、名古屋市は、「名古屋市ゴミ非常事態宣言」を発令する。そして「容器包装リサイクル」の拡充を行うことになった。翌2000年には、全国で「容器包装リサイクル法」が施行されるが、名古屋市は全国に先駆けて、これを実施することにした。

「容器包装リサイクル法」では、消費者がごみの「分別排出」をし、市町村が「分別収集」し、事業者は「再商品化(リサイクル)」の責を負うという仕組みで、ドイツのデュアルシステムを参考に作られた。

名古屋市では2000年の8月7日から実施されることになった。まず、ごみ用の黒い大きなビニール袋が、中身の見える透明な袋に変わった。そして、それまでの「燃えるごみ」「燃えないごみ」というざっくりとした分け方は廃止され、捨て方が細分化されるようになった。言うまでもなく、こうした取組みは、すべて市民の協力なくしては不可能だ。そして市民の協力と理解が最も難しい。

名古屋市では、リサイクルの大切さを分かってもらうためにパンフレットを作成し啓蒙活動を行ったほか、毎日のように「説明会」を開催した。「なぜ分別するのか」から始まり、市民の



理解と協力が不可欠であることを説いて回った。説明会を実施するのは自治体だが、地域の委員やボランティアなど、いわゆる“環境意識の高い”人々も多数巻き込んでいった。記録によれば通算2,300回以上、延べ21万人の市民に説明したことになるそうだ。

その後、名古屋市は「ごみ減量先進都市」としてメディアなどでも盛んに報道されるようになるが、その裏にはこうした地味な努力があったということ。

また名古屋市は、古紙については行政回収を行わず、補助金を出すことで地域の自主的な回収を促すようにした。一般方式による回収と学区協議会方式による回収のほか、リサイクル拠点として38の拠点ができた。

ほぼ時期を同じくして、名古屋市から私たち古紙協に打診があった。紙製容器包装とPETのリサイクルをしてほしいというもので、そのため施設づくりから委託事業として行うことになった。現在に至る私たちの活動は、この時からこのようにして始まったのである。

これらの取組みが功を奏し、非常事態宣言を出した1998年度から2000年度にかけて、名古屋市のごみ処理量は実に△23.2万tもの削減を

果たす。その後もごみは減少していき、かつて100万t前後あった処理量は2017年度で61万tと、4割も減少したのである(図1)。

ところで、私たちが委託された紙製容器包装だが、持ち込まれた紙製容器包装には使用できないものもたくさん混じってくる。例えば意外だと思われるかもしれないが、ピザの箱などがそうだ。汚れが紙に染みついてしまい、リサイクルに適さないのである。

持ち込まれたものを今度は選別し、適合物だけで梱包してまとめるが、適合物には基準があって、仮に非適合物が混じっていたとしても、それは10%以下にしなくてはならない。ここまですが行政の仕事、すなわち行政から委託を受けた私たちの仕事になる。その後、梱包された適合物は入札にかけられ、リサイクル事業者に渡される、という流れだ。

なお、この事業が始まった2000年前後、古紙は余剰状態にあって売り先がなかった。それで当初は、採算度外視で輸出して販路を作った。そうした経緯がある。

2017年、私たち古紙協は名古屋市から、さらなるごみ削減の依頼を受けた。可燃ごみに雑がみや紙製容器包装が混じっているケースは依然

として多く、これが年間数万tにも達している。

なぜ、こうしたことが起きるのかという、収集回数の問題もある。月1回のみだったりすると、平均的な家庭では保管しきれないなどの事情が考えられる。そこで「紙製容器包装と雑がみを一括収集できないか」、というのが市の依頼だった。

古紙協からすると、これは大変面倒なこと。製紙原料にならないものがたくさん混じって集まるわけだし、非適合物を10%以内に収めないといけないわけで、収集後に施設内で選別ならぬ分別を行うに等しく、これは無理がある。

しかし行政側は、どうしても一括でやりたいとの意向。そこで日進市での取組みなどを参考に、製紙原料だけでなく、固形燃料向けなどのリサイクルを増やして対処することになった。2023年4月から、この取組みが始まっている。

市民の方に聞くと、ごみの出し方が「分かりにくい」との意見もあったが、「法律で決まったので…」と説明すると納得してもらえることが多い。取組みはまだ始まったばかりだが、一括収集の方がCO2削減につながるのは間違いなく、しばらくはこの方式で進めることになるだろう。

以上、名古屋市の取組みについて説明したが、日本はごみ分別にかけては世界一である。これほどきちんと分別され、再利用循環率の高い国はなく、もうこれは「日本の文化」と定義してもよいのではないかとすら思う。これからも「混ぜればごみ、分ければ資源」の考え方をキャッチフレーズとして、さらに広げていきたい。

中国段原紙市場の飽和と 超生産過剰時代を読み解く

山發日本 営業部 兼
統括管理部

坂口健太郎 部長

2017年、中国は古紙輸入禁止の方針を打ち出し、世界に衝撃を与えた。古紙価格は暴落したが、世



界中で段ボール原紙マシンが稼働したことや、コロナ禍による巣ごもり需要などもあって価格は回復した。

しかし昨年に入ると再び下落し、ようやく2ヵ月くらい前から回復した。この下落は、段原紙の増産によって古紙の発生が過剰になったからではないかと言われている。

2022年後半から2023年にかけて、世界的に段原紙マシンの稼働が集中する。これはそもそもの生産予定に加え、コロナ禍で遅延していたマシン稼働がこの時期に集中したため、一気に生産過多になってしまった。

遅延の分ともとの生産予定分を合わせると、2024年までに中国だけで3,770万t、東南アジア1,430万t、欧州1,170万t、米国などその他の地域で1,705万t、合計年産能力8,075万tもの設備が新たに稼働する見込みである。そのうち5,700万tの設備がすでに稼働しており、これでは供給過多になるわけである。

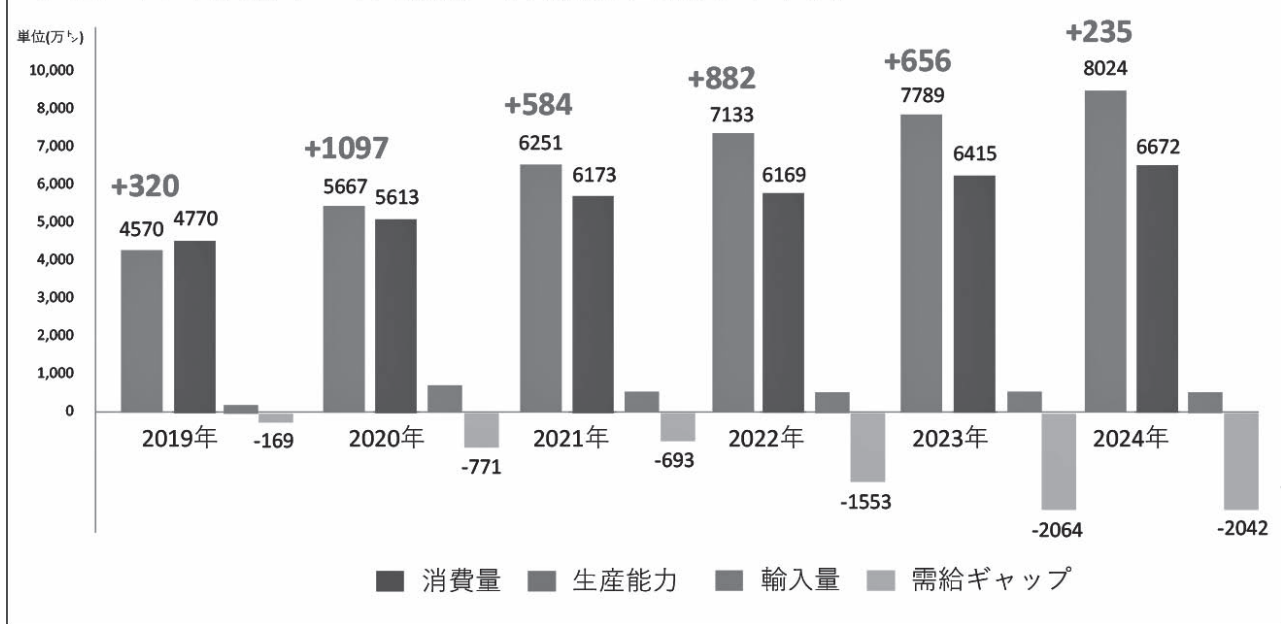
中国造紙協会の統計によると、近年は段原紙の消費量が生産量を数百万t上回る状況が続いている。これは、原料不足や採算悪化に伴う減産で稼働率が低下しているせいだ。一方、消費はコロナ禍の2年間、巣ごもり需要などから2桁成長が続いたが、景気後退で2022年以降は需要の減退局面に入っている。しかしそれでもまだ、生産量が消費量に追いついていない。

だが、これは「生産量」の話で、「生産能力」でみると話は違って来る。2022年時点において中国の段原紙生産能力は7,133万tで、消費の5,580万tに対し1,500万t以上の過多になっている。稼働率は78%未満である(図2)。

実際、消費が大きく減退した2022年下期は、山鷹や玖龍などの最大手製紙メーカーが、数百万t規模の生産調整をしたと報道された。78%未満という稼働率の試算は、あながち誇張ではないと思われる。

つまり、グラフ上では消費量が生産量を上回っているが、これは原料問題や採算悪化によるマシンの停機によって稼働できていないことが

図2. 中国の段ボール原紙生産能力と需給ギャップ



原因で、すでに中国国内は超生産過多状態にあるということだ。

しかも、それにさらなる拍車がかかった。2023年1月、中国政府は段原紙の輸入関税を撤廃。景気刺激対策の一環として行われたものだが、それまでの関税率5～6%がゼロになったことにより、中国の段原紙輸入量は大幅増となった。

詳細は後述するが、こうしたことを加味して、このまま推移した場合、2024年には中国の段原紙生産能力は8,000万tを超え、うち2,042万tが生産過剰になる(図2)。設備の稼働率は70%以下まで下がり、相当に深刻な供給過多となって業界再編がいつ起きてもおかしくない状態だ。

次に段原紙の輸入についてもう少し詳しく見てみよう。前述したように、政府の関税撤廃によって段原紙の輸入量は大きく増加した。もともと中国の段原紙輸入は、2017年の古紙輸入禁止を受け原料不足への懸念から大幅増となった。ただしピークは2020年の700万tで、以降は減少傾向にあったが、関税撤廃を受けて再び増加。2023年上半期だけでみると395万tで、これは前年同期の1.5倍に当たる。

輸入元の内訳で、最も多いのがラオス、マレ

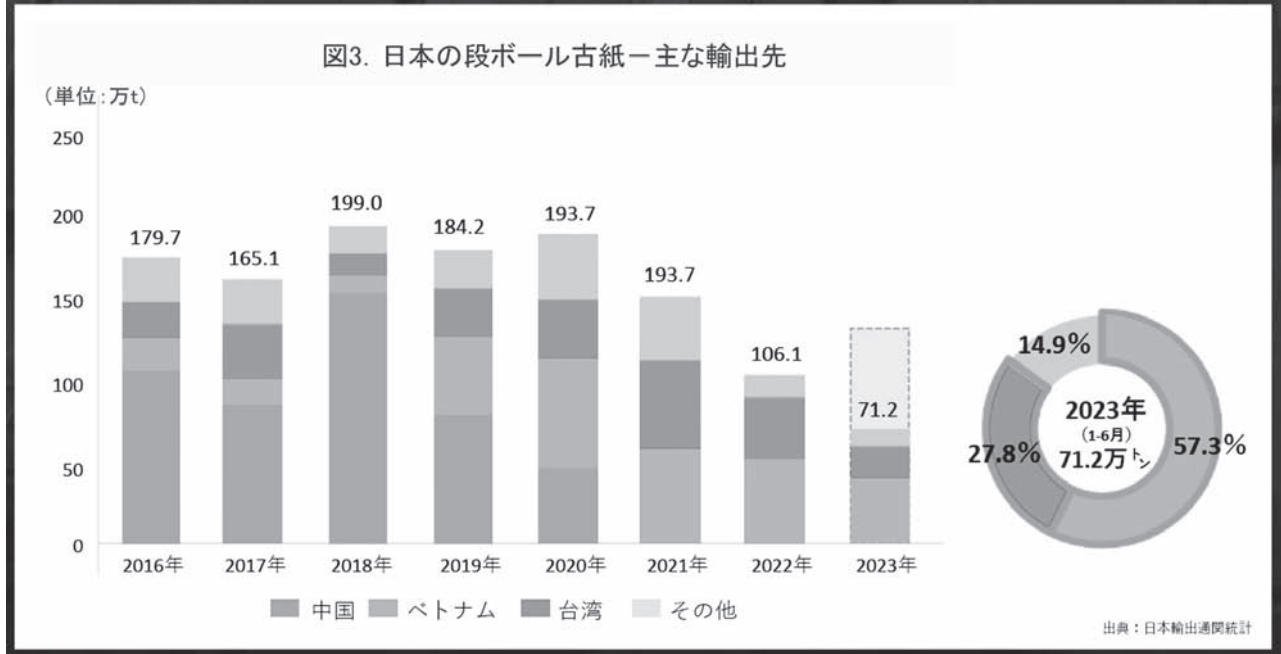
ーシアなどの東南アジアで全体の50.6%。次いでロシアの9.8%、欧州5.6%、日本は4.7%となっている。対前年比でみると、東南アジアは1.9倍の増加、ロシアは1.3倍だが、最も伸びたのが欧州で6.5倍だった。一方、日本は20%減と大きく数量を落としている。

なぜ中国向けで、日本は売り負けているのか。理由の一つは、価格優位性がなくなってしまったことだ。2022年は、アジアの段原紙も400～450ドル以上を維持していた。この相場下で、ハイパー円安により日本産段原紙の価格優位性は高かったが、消費減退と生産過剰により23年の原紙相場は300ドル前半に突入し、日本品はこの低価格についていけなくなった。

加えて、段原紙の規格の違いがある。日本と東南アジアでは規格が異なり、日本の段原紙は国内の標準気候である摂氏23℃、湿度50%を基準につくられている。これに対し東南アジアは摂氏30℃、湿度80%を標準としており、サイズ(湿潤強度)が高い。段原紙は、1%吸湿すると強度が10%低下すると言われる。つまり、サイズが低い日本の段原紙は評価が低くなる。

また、日本のK3ライナー(破裂強度2.7kgf)はアジアに存在しない規格である。これはCグ

2018年のOCC輸出向け先は79%が中国向けだった。古紙規制で古紙輸入量が制限される中、中国製紙企業が品質の良い日本古紙を取り合った事で価格が高騰した事が同国向けの輸出を後押しした。中国の古紙輸入禁止後はベトナム・台湾向けに輸出される様になり、現在はこの2か国で8割以上を占める。



レード (同 1.6 ~ 2.0kgf) や B グレード (2.2 ~ 2.5kgf) よりも強いが、A グレード (3.1kgf) と比べると見劣りしてしまう。したがって競争の激しい B グレードにダウンして売らざるを得ない。

見た目の色も重要で、ライナーはメーカーや国によって色が異なり、その国に合った色目で販売する必要があるが、日本はそのような工夫をしていない。

昨今は、ビジネスモデルも変化している。もともと東南アジアは中国向け輸出を生命線と考えており、大幅値引きにもできる限り応じている。また相場の軟化を受け、大手紙商は大量発注によるボリュームディスカウントや、相場を予測した先物取引を行うようになった。他方、日本は1ロット数百t程度を現物相場で売りがるスタイルで、現地とスタイルが合わなくなってきている。

続いて古紙貿易について。2018年、日本のOCC輸出は79%が中国向けだった。これは17年以降、中国が徐々に輸入を減らす中で、品質

の良い日本の古紙に対するニーズが高まって価格が高騰し、輸出を後押ししたという側面がある。

2019年には中国が完全に輸入禁止となったが、台湾やベトナムなどの東南アジアで新たな売り先が確保できていたこともあり、日本は販売先には困らなかった。また台湾は、古紙を輸入しなくなった中国に向けて段原紙を輸出するようになったので、代わって日本からの古紙輸入が増えた。現在、日本の輸出先は、ベトナムと台湾の2カ国だけで全体の8割以上を占めている(図3)。ただし、それ以外のアジア諸国向けでは、高い競争力を持ち得ていない。

最後に古紙の価格動向を振り返ると、2019年12月、米中貿易摩擦の激化と中国の古紙輸入禁止政策を受け、中芯原紙が300ドル、日本のOCCは80ドル付近まで下落した。しかしその後は持ち直し、日本のOCC価格については130~145ドルを維持している。

古紙価格が下がらない理由は、既述しているように中国の代わりに東南アジア市場が成長し

て販売の受け皿があること。また新しい製紙工場は、それぞれ古紙在庫を持つ必要があり、近年の増産から算出すると月100万t以上の常備在庫が必要だ。同様に段原紙の在庫も持っていないてはならず、古紙需要が増えた反面、常備在庫によって流通量は停滞している。

世界的には、消費減退により古紙の発生は減少しており、各国とも段原紙を増産するようになったので古紙の国内消費量が以前より増え、その分だけ米国・欧州・日本とも輸出量は減少している。

世界的な超生産過多で段原紙価格は下落する一方、各工場の在庫と稼働率維持のため、古紙不足は継続する。原料価格が下がらないので、製紙の収益は悪化している。超供給過剰だが、製紙の赤字環境が改善しなければ増産計画の中止・既設マシンの閉鎖など、数年以内に業界の淘汰が起こる可能性もある。

物流 2024 年問題における 紙パ業界の課題と対応

NX 総合研究所 大島 弘明 常務取締役

トラックドライバーの長時間労働に依拠する形で維持されてきたトラック物流業界だが、2024年には、ドライバーへの時間外労働上限規制・割増し賃金引き上げなどの規制が強化される。これが、いわゆる物流の「2024年問題」になる。



労基法を無視した時間外労働で成り立っていた部分が、この物流規制によって成立しなくなる。その結果、2024年時点で輸送能力の14.2%、営業用トラックの輸送トン数で4億tが不足し、さらにこのまま推移した場合、30年に輸送能力は34.1%、輸送トン数は9.4億t不足すると試算されている。

トラックドライバーの労働条件は悪い。賃金

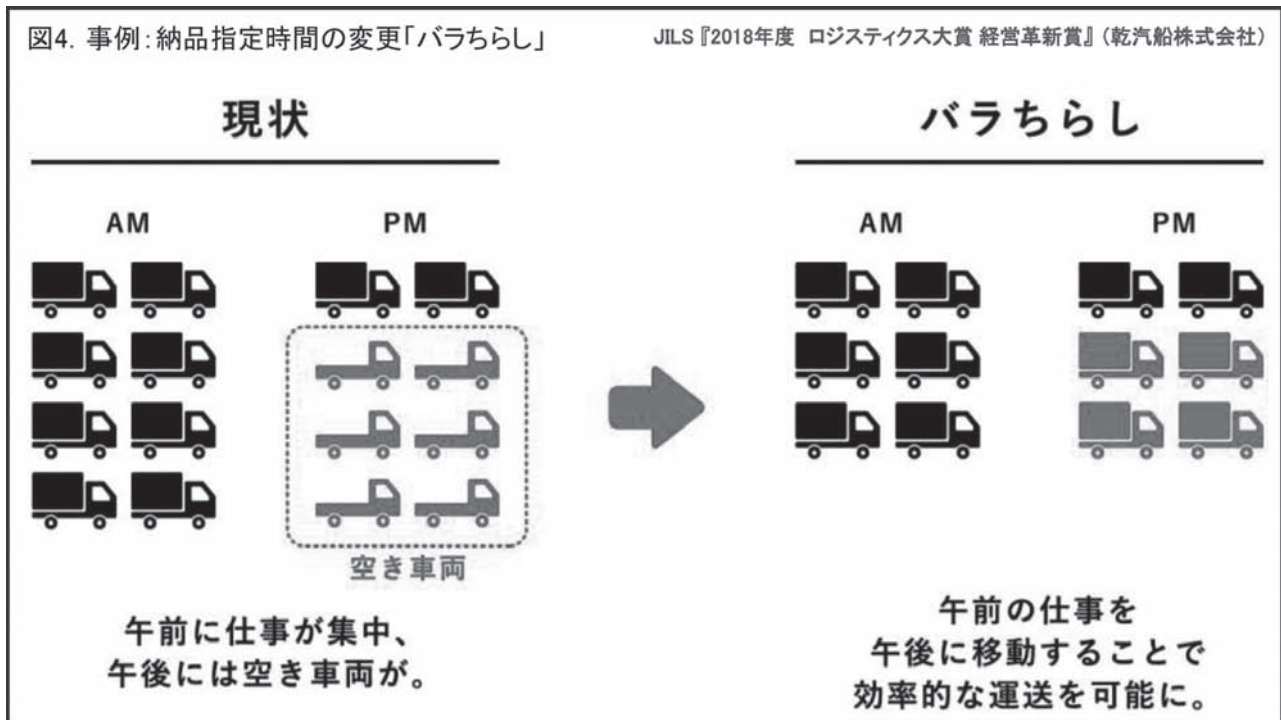
は全産業平均より1割低く、労働時間は2割長い。しかもハードワークで、全産業中、労災申請・支給決定は最も多い。当然、この状態では人材が集らず、トラックドライバーは1990年代半ばのピーク時で98万人だったが、現在は74万人まで減少した。近年の有効求人倍率は平均3倍で、担い手の中心は40代以上であり、若い人が少なく、後継者がいない。10～20代は全体の約1割にとどまっている。

なぜ、このような状態になってしまったのかと言えば、きっかけは1990年の「規制緩和」に遡る。それまでは免許制で、国が需給バランスを取っていたが、規制緩和で許可制になり参入規制がなくなったため、一気に物流会社が増えた。

まず大手メーカーの物流部門が独立して子会社になり、また下請構造が複雑化した。全産業においてそのように変化したことで、それまで4万社だった物流会社は現在の6万社にまで膨れ上がった。物流会社は1.6倍に増加したが、荷物そのものは1.2倍しか増えていない。つまり競争過多になって運賃は大幅に下がり、ドライバーの賃金低下-労働環境悪化につながっていた。同時に運賃は安くて当然という認識が生まれたことで、燃料費の高騰などがあっても価格に転嫁しづらくなっていった。

次に、ドライバーの長時間労働の内訳について説明する。実は、ドライバーの労働時間の中で、少なくない割合を占めているのが、「荷待ち」と「荷受け」時間だ。1日当たり1～3時間がここに費やされている。ここを改善するだけでも、1日の労働時間を削減できるはずである。

なぜ長時間の荷待ちや荷受けが起こるのか。それは複数のトラックに同じ時間に来るよう指定したりすることがまだ多いからだ。例えばA、B、C社は8時に、D、E、F社は10時というような分散や、混雑回避の割り振りをするだけで荷待ちは緩和される(図4)。また「受付予約システム」の導入などでも緩和できるはずだ。



現状、荷役作業をドライバーが担っているケースが多く、これもまた大きな負担となっている。そもそも手積みによる荷役は、安全性の問題もある。パレットによる荷積みの導入、一貫したパレチゼーション、機械化・ロボット化などを進めるべきである。

言うまでもなく、こうしたことはトラックドライバー個々の力ではできない。荷主・物流事業者の協力なくしてはできない。つまり、荷主・物流事業者の協力なくして物流問題の解決はあり得ない。

2023年6月、国交省が2024年問題に関するガイドラインを策定した。ガイドラインは「物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組みに関するガイドライン」と題して、待遇改善の取組みを「荷主事業者・物流事業者」に求めたものである。

ガイドラインでは、まず喫緊に取り組むべきこととして、先に挙げた「荷待ち・荷受けに係わる時間の把握」「可視化 * 時間の努力目標を設けること」「予約受付システムの導入」「分散化・システム化」、などのほか、「納品期限」「物流コスト込み取引価格等の見直し」「多重下

請け構造の是正」「書面による契約書作成の徹底」「適正運賃収受・価格転嫁の円滑化」——などが施策として挙げられている。そして、これらが適正になされているかを調査するため「トラックGメン」制度が創設された。

「トラックGメン」は、業者の倉庫や工場などを実際に訪問し、前記のような施策が実施されているかを調べる役割を担う。2023年7月に創設され、162名が全国の運輸局に配置されている。

さて、では紙・パルプ業界は2024年問題にどう取り組んでいけばよいのか。ここで検証してみたい。

経産省の試算によれば、2024年度に不足する輸送能力は前述の通り全産業で14.2%としている。紙・パルプ業界に限ってみると、12.1%不足すると算出した。

紙パ業界における物流は、技術開発の要素が少なく、他社との商品による差別化が難しいことから、商品以外の部分（リードタイムや納品方法など）で競争が行われることになりがちで、結果として、短いリードタイムでの発注や少量多頻度納品といった商習慣が定着せざるを得な

かった。

先に上げた「車両集中の分散化」や「予約受付システム」、荷役作業の「パレット化、機械化、ロボット化」などは全産業共通だが、とりわけ紙パ業界が取り組まなければならない事項は、以下のようなところだろう。

- (1) 注文確定から納品までの期間が短いため、効率的な配車が行えない→納品リードタイムの見直し、受発注締切り時間の見直し
 - (2) 荷主側の施設に合わせて荷姿を決めているため、積載効率が悪い→輸送効率に合わせて荷姿を変更
 - (3) 高速道路料金が収受できないため、一般道を利用。結果、労働時間が長時間化→往復ともに高速道路を利用できるようにする
 - (4) 着荷主から複数の納品場所、納品回数、細かい少量多頻度配送が求められる→納品場所・納品回数・納品日や時間などの集約化
- 最後に、物流が“持続可能”なものになっていくために、どうすべきか。当たり前だが、新卒者や若年層、女性、高齢者が働きたいと思うような、魅力的な場所にならなければならない。

そのために必要なこととして、まず何より「安全」の確保がある。安全に関するコンプライアンスを徹底すること。そして「適正運賃の収受」である。低賃金からの脱却が必要であり、労働時間が短縮しても賃金が減らない仕組み・体制づくりをしなくてはならない。

もう一つ、大事なものは「トラック事業者もきちんと主張する」ことだ。下請側は発注側に要求を主張しづらいし、物流業界では特に、その傾向が強い。しかし昨今は、ようやく「変革」の機運が出てきたわけで、以前より、主張しやすい環境にあるはずだ。これまで述べてきたような改善をドライバー自身が荷主にも積極的に提案し、労働条件改善などの問題意識を共有してもらえるよう、「荷主と交渉する」「働きかけをする」必要がある。双方向に、もっとモノを言える体質になっていくことが何より求められる。

閉会挨拶

大久保 信隆 副理事長

閉会に当たり、ご講演いただいた3名の方々に御礼を申し上げたい。

まず、石川喜一郎氏の講演内容は、紙製容器包装や雑がみなどについても選別が必要であることを



示唆している。古紙の発生が減少する中、われわれは原料の新たな掘り起こしをしないといけないが、古紙を出してくださる方々にしっかりと分別していただければ、われわれはそれを良質な製紙原料にしていくことができる。

続いて、山發日本の坂口健太郎氏は、中国における段ボール原紙設備の過剰が深刻であると指摘された。講演の中で「24年の設備稼働率が70%以下まで低下する」と話されたが、古紙は生産物ではなく発生物なので、原紙の生産が減れば発生も減る。したがってタイムラグはあっても、マクロでみればバランスがとれるはずだ。しかし変化があまりにも急激だと、余剰による古紙価格の下落や不足による高騰を招く。当センターとしても、その辺りの状況をよく見極めながら古紙需給の安定を目指す取組みが求められるだろう。

最後に登壇された大島弘明氏の講演も、実に興味深い内容だった。われわれの業界では、年間の製品数量が2,000万t、それに原料の2,000万tと薬品・資材の500万tを合わせ計4,500万tもの物流が一年間に発生する。物流の効率化・改善は何が何でも持続的にやらないといけない。われわれも、これから働き方改革を実行しながら、国交省のガイドラインに沿った行動をすることが求められる。

今回の講演内容から、キーワードは“持続可能な社会をつくる”ということだろうと感じた。古紙センターも来年は50周年を迎える。非常にタイムリーなセミナー内容だったと思う。



委員会トピックス

安全防災委員会

近畿商組及び紙朋会と関東商組安全防災委員会との意見交換会 開催報告書

栗原紙材株式会社
上原 崇志



会議の様様

■開催趣旨

現在、関東商組安全防災委員では全組合員の無事故・無災害を目指し、安全DVDの作成、安全セミナーの実施、事故・災害の撲滅にむけた啓発物（ポスター）を作製する活動を行っています。今回の意見交換会は、全原連加盟各単組の組合員と安全に対する取組みや意見を、直接聴取・反映し、全組合員の無事故・無災害を達成する為に開催しました。

■概要

日 時：2023年9月20日(水)14時30分～17時

場 所：近畿商組組合事務所

出席者：近畿商組 10名

関東商組 10名

■内容

●2024年度の安全ポスター作製について

過去の年間ポスターを参考に関西らしさをだしたデザイン、フレーズについてそれぞれ意見を出し合い、来年度のキャッチフレーズを決定しました。

2024年度キャッチフレーズは下記の通り。

※ポスターは2024年4月配布予定

年間キャッチフレーズ

『知らんけどではすまされない』

●各社の安全への取り組みについて

- ・月に一度10万円を超える損害額が発生した場合の事故事例を会社に展開
- ・安全スローガンの作成（表彰）
- ・運転記録証明取得し、違反の確認を行う
- ・スマートドライブシステムによる運転点数、くせの見える化
- ・本社安全管理者と現場責任者で月に1回管理委員会を開き、発生した事故報告と防止対策を検討している。そこで決められたルールは会社独自の安全手帳にまとめ、研修時に活用している。

また、営業所でも月に1度ドライバーミーティングを開き管理委員会の内容を報告しており、ドライバー研修として、同乗研修、本社運行管理者の添乗チェックを実施している。

- ・安全衛生会議を定期的実施し、入社時にヤード内の危険箇所を説明後、サインをし

てもらっている。

- ・アルコールチェック（社長以下全員実施）
- ・ストレスチェックを年1回実施。パワハラ・セクハラ研修も同時に行う。

●最近の事故事例

- ・リチウムイオン電池及びバッテリーの混入に気づかずプレスし、プレス内で発火
- ・飛込の一般の客が勝手に構内に侵入し、重機と衝突事故
- ・マフラーの過熱により（DPF 燃焼装置）小火発生
- ・プレスから崩れた新聞古紙の上に短時間ではあるがクランプを停車させ、マフラー熱から発火

●大型物流倉庫火災、損害賠償を受けての各社の対応

- ・施設賠償保険の見直し（同じ事例がないことや過去の経験も踏まえ1億→2億に）
- ・借家人賠償責任保険へ加入
- ・フォークリフトの対物無制限の任意保険に加え、損害賠償責任保険にも加入
- ・業務請負契約の損害賠償条項に可能な限り損害賠償額の上限を記載する
- ・10億円まで保証される保険に変更（100億円まで保証タイプもあるが、高額すぎる為断念）
- ・大型物流倉庫からの防火に対しての要望が強くなった。対応に苦慮
- ・エンジンリフトではなくバッテリーリフトに順次切り替える

●最後に

意見交換会翌日、和歌山県にある高野山真言宗の総本山「金剛峯寺」まで足をのばし、「全原連加盟組合員全社無事故・無災害達成！」を祈願してきました。



会議の様様



会議の様様



紙朋会の皆様



金剛峯寺にて



金剛峯寺にて



紙朋会との集合写真



東京都西支部

懇親コンペ報告

株式会社パルコム 笹田 康平

令和5年10月19日(木)に東京都西支部の懇親コンペを「飯能くすの樹カントリー倶楽部」にて開催しました。

当日は晴天に恵まれ、気温も26度前後と温かく、風もない絶好のゴルフ日和となりました。

参加者10名(3組)で新ペリア方式にて行われたラウンドでしたが、(株)工藤商店の島田さんが、三弘紙業(株)の吉住さんとの激闘を制し2023年西支部懇親コンペ「秋のチャンピオン」に輝きました。

上位陣の緊張感あるプレーも素晴らしかったのですが、前半は(株)市川商店の市川さんのチップインイーグルで盛り上がり、後半は何度かティーショット待ちの関係で全員(3組)そろって談笑する機会などもあり、初めて参加させて頂く私にとっても楽しい時間と楽しいゴルフ



フとなりました。

同じ組で回って頂いた平松支部長や小池さんはもちろん、参加された皆様に厚く御礼申し上げます。次回はもう少し腕を磨いて、参加させていただきまますので、今後ともよろしく願います。

埼玉県支部

研修旅行報告

むさし野紙業株式会社 金子 真人

埼玉県支部研修旅行が10月20日(金)~22日(日)北海道にて実施されました。

昨年の沖縄研修旅行より一ヶ月早い日程で、寒さ警戒の最高と思われる期間を選びました。

研修旅行のスケジュールは、初日レンゴウの恵庭工場を見学する研修、二日目は観光組とゴルフ組に分かれた親睦会、三日目は全員買い物メインで空港へ向かいました。

【参加者】

- | | |
|-----------|--------|
| 株式会社ブシュー | 近藤 豊 |
| 株式会社今井 | 今井 利明 |
| 永田紙業株式会社 | 永田 耕太郎 |
| 永田紙業株式会社 | 松葉 利男 |
| 株式会社赤松商店 | 田中 淳一 |
| 株式会社育峯紙業 | 毛塚 峰男 |
| 株式会社WELL | 金久保 裕正 |
| 株式会社大久保 | 福浦 秀樹 |
| 久米川紙業株式会社 | 吉浦 慎太郎 |
| 久米川紙業株式会社 | 吉川 将大 |
| 株式会社國光 | 山口 直 |
| 株式会社こんの | 高橋 雅之 |
| 三弘紙業株式会社 | 中島 純雄 |
| 株式会社須賀 | 安達 浩明 |
| 株式会社坪野谷紙業 | 清水 豪 |
| 株式会社富澤 | 太田 吉計 |

美濃紙業株式会社	近藤 英彰
むさし野紙業株式会社	金子 真人
株式会社もっかいトラスト	成田 雄哉
株式会社山田洋治商店	芝田 公良

【研修】 レンゴー 株式会社 恵庭工場

工場長 谷 芳男 様
 製造部長 森谷 正美 様
 品質保証部長代理 中筋 直樹 様
 製造課長 笹沼 真 様

1. 主要取扱品目

段ボールシート・ケース。

生産能力 貼合；8,000 千㎡／月 製函；
5,000 千㎡／月。

主力としては A フルート（厚さ 5mm）野菜・果物等。

続いて B フルート（厚さ 3mm）ビールなどの飲料。

全体的には圧倒的に食品関係の段ボールが多い。

逆に通販の段ボールは 1% とほとんどない。北海道内ではピッキングされないため。

全国的に言えることではあるが、最近消費者の買い控え・節約が響いている。確かに缶ビールを週に 10 本ペース飲んでいた消費者が 9 本に減らしたら、一割減る計算。



「レンゴー 恵庭工場」にて（雨天のため室内にて集合写真）

2. 企業理念

レンゴー全体で 6 部門（※）を扱い、「どんな素晴らしい物であってもそれに釣り合うパッケージがなければ世に送り出せない」の信念で社会貢献に努めている。

（※）6 部門：段ボール・製紙・紙器・軽包装・重包装・海外。

3. 工場人員

工場の現場は 120 名。女性も 7 名活躍している。

北海道特有のクーラーが導入されていないことで今年の夏は暑さが厳しかった。

地球温暖化から猛暑が懸念されることからクーラーの導入は検討しているものの従来から作業もハードなため、定着率が今一の悩みを抱えている。



工場内は 2 階でご担当者様から説明を受け見学する形式



大変わかりやすい勉強会の場で熱心に聴講する組合員一同

採用についても時給を上げる努力はしたが、思うような応募がないので工夫が必要。

【親睦会】観光組とゴルフ組

1. 観光組

観光組は7名で3ヶ所を見学

①ウポポイ（民族共生象徴空間）

ウポポイはポロトコタンを大きくリニューアルした日本最北の国立博物館。アイヌの歴史と文化を短時間で学ぶことが出来ました。

ウポポイはアイヌ語であり「大勢で歌う」の意味。実際にアイヌの楽器の演奏にのせた歌を聴くと癒され、元気が出ました。また、的に向けて弓矢を射ることも出来、食物を獲る難しさを感じました。



「ウポポイ」はアイヌ民族の生活・風習を知る広大な博物館

②創作木彫 荒井工芸館

木彫りの熊が見事な工芸館。材質は北海道日高地方の榎（シナ）。一体ずつ精魂込めて作るため、月間2体しか完成しません。こんなに一生懸命熊を彫っているのだから、「熊さん、人を襲わないで」なんて説きたいですね。他にも木製のペーパーナイフは実用的でインテリアにも素敵な品でした。

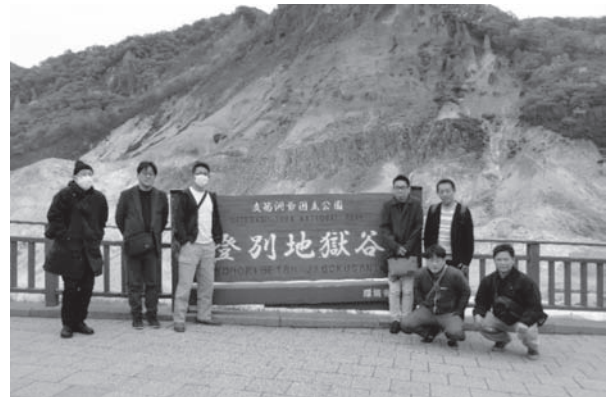


木彫りの熊は680万円の高級品あり、剥製は1,200万円も!!

③登別地獄谷

北海道なら一度は行ってみたい場所と参加者からリクエストがありました。

自然の神秘が感じられる別世界のような空間に驚きました。残念ながら滞在時間の関係で奥まで歩いて見学出来ませんでした。



登別地獄谷はその名の通り、自然が地獄を連想させる別世界

2. ゴルフ組

北海道を代表する名門コースの桂ゴルフ倶楽部で16名がコンペに参加。

関東に住むゴルファーとしては、観光とは違った魅力に満ち溢れていました。



ゴルフは4組で和気あいあい。終盤の雨と寒さには凍える思い!?



今井副支部長の輝く乾杯の音頭でジンギスカンの親睦会開始



親睦会の二次会は落ち着いたムードでゆったりと歓談



北海道の本領発揮と言わんばかりの美味しい海の幸が満載

【レポーター所感】

旅行期間中、たまたま気温が低い日にあたり、夜は毎日雨が降っていました。

逆にホテルの部屋の中は、むしろ暑いという温度差があり少々困惑しました。

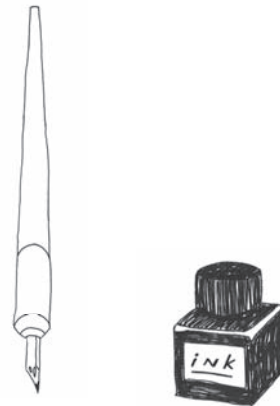
最近夏の猛暑が記録的な厳しさで話題になっていても、北海道の冷房導入は4割程度というから驚きです。確かに昔は軽井沢同様、北海道に冷房は必要なかったのでしょうか。

それにしても今回の観光は過去にないくらい充実していました。

民族衣装・芸術・音楽・自然を短時間で満喫出来たことは、日常にのしかかる仕事の重圧を忘れられる貴重なひと時になりました。

こぼれ話になりますが、観光バスの下部収納庫に自分のバッグを置いたのにもかかわらずバッグを忘れたとバスの中で騒ぐ者やホテルのチェックアウト時にルームカードキーを返却し忘れて帰りのバス内でウロウロする者もいるなど、日常の会合等では見られないユニークな一面には一同爆笑でした。これも組合旅行の醍醐味かも知れません。

最後に、今回の研修旅行にご協力賜りました長谷川 裕一様（株式会社もっかいトラスト）、富澤 進一様（株式会社富澤）、鈴木 大二郎様（株式会社松本光春商店）、ご多忙のところ誠にありがとうございました。



令和5年度 東京都中小企業団体中央会表彰式

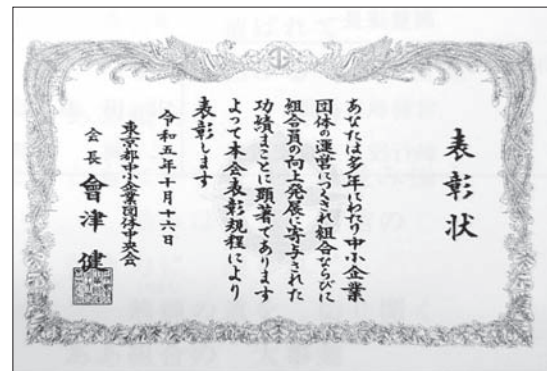
令和5年10月16日（月曜日）銀座ブLOSSAMにて東京都中小企業団体中央会会長表彰受賞者133名の表彰式が開催されました。関東商組からは組合功労者として、永田耕太郎理事が東京都中小企業団体中央会会長から表彰状が授与されました。今回の表彰式は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて、会場参加人数に制限がある中での開催となりました。

〈受賞者〉

東京都中小企業団体中央会会長表彰

《組合功労者》

永田 耕太郎 理事



会場風景



会場入口

むさし野紙業 株式会社
代表取締役
小林 哲也



関東商組組合員の皆様、はじめまして。

2023年10月1日付にてむさし野紙業株式会社の代表取締役となりました小林哲也と申します。どうぞよろしくお願い致します。

さて、弊職と古紙事業の関りを少しご説明いたしますと遡ること2001年8月に親会社での大阪勤務から東京勤務へ異動となりそのまま弊社へ出向となりました。

以前は専ら製品である板紙（段ボール原紙ライナー、中芯）やコートボール、段ボールシート・ケース、工業フィルム、食品包装等の営業に携わっていましたが弊社で仕入営業や現場作業補佐、経営層の補佐的な仕事内容と変わり戸惑いと不安でいっぱいでした。

また、後にはグループ会社である「(株)グリーン山愛（東京都町田市）」や今ではレンゴー(株)様、(株)もっかいトラスト様のグループ会社であります

「グリーンリサイクル(株)（東京都足立区）」へ兼務出向辞令が加わり弊社含む3社の担当となり多忙を極めた事を覚えています。

勿論、給料は3倍ではなく1倍であったことは言うまでもありません。

1週間の内、4日は弊社、残りの2日乃至3日は前述グループ会社2社勤務が暫く続いた頃、弊社で新規ヤード出店の話が持ち上がりました。2000年前後では国内の古紙市況が低迷していましたが2002年頃から隣国中国では海外からの投融资が促進され「上海万博」、「北京五輪」の大型イベントも控えあらゆる産業や物流が大きく動きだしました。

このような背景にあって、弊社では新規出店にドライブがかり出店プロジェクトに携わることとなりました。出店エリアのリサーチ、地主や不動産会社との交渉や契約、建物工事業者、機械メーカーとの度重なる打合せ、着工を経て、

新社長 紹介



北多摩営業所（東京都調布市）、西多摩営業所（東京都瑞穂町）、厚木営業所（神奈川県厚木市）を立ち上げました。

この間、財務・経理業務にも携わっていたので既存3ヤードは勿論、新規3ヤードの資金繰りも担当させられた結果、心労ストレスで精神的にも肉体的にもダメージを受け「メンタルダウン」状態に陥りました。

しばらくすると親会社から人員の派遣があり心身共に楽になりましたが正に「修羅場をくぐった」経験となりました。

その後は、新規出店した厚木営業所の立ち上げに注力し2009年3月に親会社へ帰任となりました。2016年4月には先述の(株)グリーン山愛に再度出向し7年半勤務した後に今回の人事異動となった次第であります。

此度、14年半ぶりに古巣に戻ってきましたが社内は勿論のこと、弊社を取り巻く環境すべてにおいて大きく変化しておりそれらを受け止め消化、吸収しながら弊社の「中長期に亘る方向性」や「将来のあるべき姿」、また新たな事業の発掘等を模索、思案する毎日を送っています。

世界情勢に目を向けますと相も変わらず各地で紛争が絶えず中国の経済低迷も深刻さを増しております。国内においては「急激な物価高騰に伴う消費欲の減退」、「物流業界の2024年問題」や「IT化とペーパーレス化の潮流」、「人員不足」等々と古紙事業を取り巻く環境は問題が山積していますが情報の共有や協調、組合員の皆様のご支援やご協力を仰ぎながら一緒にこれらの問題解決を図っていきたくと考えております。

最後になりますが改めて弊社へのご指導、ご鞭撻をお願いさせていただき弊職のご挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

(2023年10月1日)

三紙会 TWEET 夢



株式会社 増田商店
増田 悦宏

この年になって「夢」を語る、考える事は殆どしなくなった。自分の子供と話してもまだ曖昧にしか語れないようだ。

「夢」を持つ事は大事だろうと思う。子供が「夢」を持ちそれを話してくれる日が来るのを待っている。

そしてその成長、自立を見守る事が今の「夢」かな。あと強いて言えば平凡に幸せに暮らせる事。これ以上は思いつかない。

大体一通りの「夢」いや希望？は叶った。結婚した事、子供が生まれた事。自分が子供の頃に思い描いた「夢」は努力をしてなかったから、叶わなかったから、子供の「夢」は叶ってほしいな。

王子斎藤紙業 株式会社
足立 進



夢といえば小学生の頃に将来の夢など作文を書いた記憶もあります。

何を書いたか思い出せなかったので大人になってからの夢として年末ジャンボ宝くじで一攫千金!?

今年は前後賞合わせて10億円とまさに夢のような金額となっており当たったらなにを買おう

どこ行こうと当たる前から楽しみに想像だけは膨らみます。

結果は元手を取り戻せばラッキーな感じで毎年悔しい思いをしていますので、今年こそは!と夢はでっかく持ちまして、年末の抽選日を楽しみに迎えたいと思います。

迎春

昨年中はいろいろ有難うございました。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



令和6年1月 (アイウエオ順)

<p>新井紙材 株式会社</p> <p>代表取締役 新井 遼一</p> <p>東京都港区麻布十番2-7-1 TEL 03-3408-5862</p>	<p>王子浮間古紙センター 株式会社</p> <p>代表取締役社長 野田 豊治</p> <p>東京都北区浮間5-11-7 TEL 03-3967-6236</p>	<p>株式会社 金子商事</p> <p>代表取締役 金子 孝</p> <p>埼玉県所沢市南永井767-5 TEL 04-2944-4097</p>
<p>株式会社 新井商店</p> <p>代表取締役会長 新井 勝夫 代表取締役社長 新井 重樹</p> <p>東京都台東区根岸5-14-13 TEL 03-3873-9111</p>	<p>王子斎藤紙業 株式会社</p> <p>代表取締役社長 野田 豊治</p> <p>東京都新宿区新宿1-34-8 TEL 03-3226-6611(代)</p>	<p>株式会社 木下</p> <p>代表取締役社長 木下 一善</p> <p>神奈川県川崎市幸区戸手4-12-18 TEL 044-544-5611</p>
<p>株式会社 育峯紙業</p> <p>代表取締役社長 毛塚 孝男</p> <p>茨城県古河市小堤315-14 TEL 0280-98-2632 FAX 0280-98-2635</p>	<p>株式会社 大久保</p> <p>代表取締役会長 大久保 信隆 代表取締役社長 大久保 薫</p> <p>東京都荒川区東日暮里1-40-5 TEL 03-3891-1188(代)</p>	<p>株式会社 木場リサイクル</p> <p>代表取締役社長 新井 英希</p> <p>東京都江東区塩浜2-14-2 TEL 03-5665-8088</p>
<p>市川紙原 株式会社</p> <p>代表取締役社長 栗原 正光</p> <p>千葉県市川市平田1-20-11 TEL 047-322-3301</p>	<p>大村紙業 株式会社</p> <p>代表取締役社長 大村 直紀</p> <p>埼玉県春日部市新宿新田14 TEL 048-718-0202</p>	<p>株式会社 共益商会</p> <p>代表取締役社長 赤染 マリリン</p> <p>東京都品川区南大井6-8-11 TEL 03-3763-9431</p>
<p>株式会社 市川商店</p> <p>代表取締役 市川 哲也</p> <p>東京都練馬区早宮3-12-18 TEL 03-3992-6136 FAX 03-3992-6137</p>	<p>株式会社 海原</p> <p>代表取締役社長 海原 健二</p> <p>群馬県館林市新宿1-9-34 TEL 0276-73-0047</p>	<p>株式会社 工藤商店</p> <p>代表取締役社長 工藤 裕樹</p> <p>東京都板橋区前野町4-40-18 TEL 03-3965-5101</p>
<p>株式会社 今井</p> <p>代表取締役社長 今井 利明</p> <p>埼玉県さいたま市浦和区 針ヶ谷1-1-14 TEL 048-831-5468</p>	<p>株式会社 梶谷商事</p> <p>代表取締役社長 梶野 隆史</p> <p>東京都杉並区堀ノ内3-13-3 TEL 03-3315-4411</p>	<p>栗原紙材 株式会社</p> <p>代表取締役会長 栗原 正雄 代表取締役社長 栗原 護</p> <p>東京都荒川区東日暮里1-27-9 TEL 03-3806-1751</p>
<p>ウブカタ資源 株式会社</p> <p>代表取締役 金子 真澄</p> <p>群馬県沼田市屋形原町2113 TEL 0278-22-5555</p>	<p>株式会社 金澤紙業</p> <p>代表取締役社長 金澤 基彦</p> <p>神奈川県藤沢市白旗4-2810 TEL 0466-81-0865</p>	<p>株式会社 グリーン</p> <p>代表取締役 斎藤 浩二</p> <p>千葉県松戸市紙敷879 TEL 047-391-1588</p>

迎 春

昨年中はいろいろ有難うございました。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



令和6年1月 (アイウエオ順)

<p>株式会社 久米川紙業</p> <p>取締役会長 吉浦高志 代表取締役 吉浦亜矢子</p> <p>狭山営業所：埼玉県狭山市上赤坂606 TEL 042-391-4113</p>	<p>有限会社 斉藤宏商店</p> <p>代表取締役 齋藤久雄</p> <p>群馬県高崎市柴崎町1175 TEL 027-352-6633</p>	<p>東京紙業 株式会社</p> <p>代表取締役 赤澤 満</p> <p>東京都中央区八丁堀1-8-6 TEL 03-5540-6141</p>
<p>株式会社 小池商店</p> <p>代表取締役 小池茂男</p> <p>東京都新宿区新宿1-20-2 TEL 03-3354-9321(代)</p>	<p>株式会社 佐久間</p> <p>代表取締役社長 佐久間仁宣</p> <p>千葉県四街道市四街道1544-2 TEL 043-420-6501</p>	<p>株式会社 富澤</p> <p>代表取締役社長 富澤進一</p> <p>埼玉県川口市元郷3-21-31 TEL 048-227-3098 FAX 048-226-2044</p>
<p>株式会社 國光</p> <p>代表取締役社長 朝倉行彦</p> <p>東京都台東区東上野5-2-5 下谷ビル2階 TEL 03-6636-8525</p>	<p>三弘紙業 株式会社</p> <p>代表取締役社長 上田晴健</p> <p>東京都文京区本郷1-30-17 TEL 03-3816-1171(代)</p>	<p>株式会社 中商ホールディングス</p> <p>代表取締役 中上 剛</p> <p>福島県白河市白坂鶴子山66番地1/2F TEL 0248-28-2942</p>
<p>株式会社 近藤商店</p> <p>代表取締役社長 近藤國宏</p> <p>東京都台東区元浅草4-1-3 TEL 03-3843-3866 FAX 03-3843-3867</p>	<p>株式会社 下田商店</p> <p>代表取締役会長 土方十四江 代表取締役社長 土方道明</p> <p>東京都日野市万願寺2-35-6 TEL 042-583-0753</p>	<p>株式会社 中田</p> <p>代表取締役社長 中田敏夫</p> <p>東京都渋谷区恵比寿西2-6-6 TEL 03-3461-5910</p>
<p>株式会社 齋藤英次商店</p> <p>代表取締役 齋藤大介</p> <p>千葉県柏市柏6-1-1 TEL 04-7186-6701</p>	<p>株式会社 須賀</p> <p>代表取締役 須賀清文</p> <p>東京都荒川区東日暮里2-28-11 TEL 03-3891-6224</p>	<p>永田紙業 株式会社</p> <p>代表取締役会長 永田博太郎 代表取締役社長 永田耕太郎</p> <p>埼玉県深谷市長在家198 TEL 048-583-2141</p>
<p>株式会社 斉藤久七商店</p> <p>代表取締役 斉藤岳二</p> <p>東京都荒川区東日暮里4-14-2 TEL 03-3806-2897</p>	<p>株式会社 タンザワ</p> <p>代表取締役 中村幸司</p> <p>神奈川県秦野市曾屋357 TEL 0463-81-1010</p>	<p>株式会社 ナコジ</p> <p>代表取締役 大本知昭</p> <p>東京都千代田区神田錦町3-13-7 TEL 03-5280-3710</p>
<p>株式会社 齋藤商店</p> <p>代表取締役社長 齋藤米藏</p> <p>東京都千代田区神田神保町1-46 TEL 03-3293-7701(代)</p>	<p>株式会社 坪野谷紙業</p> <p>代表取締役 坪野谷悟輝</p> <p>栃木県下野市柴1-4 TEL 0285-44-5005</p>	<p>有限会社 根本商店</p> <p>代表取締役 根本祐一</p> <p>日立市平和町1-4-11 TEL 0294-21-2068</p>

迎春

昨年中はいろいろ有難うございました。
本年もどうぞよろしく願い申し上げます。



令和6年1月 (アイウエオ順)

<p>株式会社 平松商店</p> <p>代表取締役 平松 邦明</p> <p>東京都渋谷区幡ヶ谷2-42-5 TEL 03-3378-5631</p>	<p>松岡紙業 株式会社</p> <p>代表取締役社長 佐藤 元彦</p> <p>静岡県富士市蓼原110 TEL 0545-63-1212</p>	<p>むさし野紙業 株式会社</p> <p>代表取締役社長 小林 哲也</p> <p>埼玉県川越市大字下広谷404-1 TEL 049-239-3456</p>
<p>株式会社 藤川紙業</p> <p>代表取締役 藤川 達郎</p> <p>東京都荒川区西日暮里2-32-20 TEL 03-3807-9347</p>	<p>株式会社 丸栄商店</p> <p>代表取締役 金井 篤史</p> <p>茨城県古河市尾崎11-2 TEL 0280-76-2690</p>	<p>株式会社 村松紙業</p> <p>代表取締役 村松 修</p> <p>神奈川県横須賀市舟倉2-2-8 TEL 046-835-8562</p>
<p>株式会社 ブシュー</p> <p>代表取締役 近藤 豊</p> <p>埼玉県新座市野火止1-13-41 TEL 048-479-7578</p>	<p>株式会社 丸興佐野錦一商店</p> <p>代表取締役会長 佐野 一 代表取締役社長 相田 寛文</p> <p>静岡県富士市五貫島546 TEL 0545-65-6277</p>	<p>森田紙業 株式会社</p> <p>代表取締役社長 森田 臣</p> <p>東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎2113 TEL 042-557-0864</p>
<p>株式会社 二見</p> <p>代表取締役社長 須長 勇太</p> <p>神奈川県小田原市中町3-13-22 TEL 0465-23-3125</p>	<p>株式会社 丸十商店</p> <p>代表取締役 高橋 德行</p> <p>東京都足立区本木2-10-1 TEL 03-3849-7201</p>	<p>株式会社 山 博</p> <p>代表取締役 山室 新太郎</p> <p>東京都台東区元浅草3-8-4 TEL 03-3845-2828</p>
<p>北越パレット 株式会社</p> <p>代表取締役社長 橋本 仁孝</p> <p>千葉県市川市塩浜3-14-1 TEL 047-397-3115</p>	<p>株式会社 水 越</p> <p>代表取締役 水越 謙太郎</p> <p>〒316-0036 茨城県日立市鮎川町2-1-35 TEL 0294-36-2545 FAX 0294-35-8121 http://www.mizukoshi-re.co.jp/</p>	<p>株式会社 山 室</p> <p>代表取締役社長 畑 純一</p> <p>東京都台東区元浅草2-2-15 TEL 03-3844-8191</p>
<p>株式会社 もっかいトラスト</p> <p>代表取締役社長 長谷川 裕一</p> <p>埼玉県春日部市南栄町15-9 TEL 048-754-6298</p>	<p>皆川商事 株式会社</p> <p>代表取締役社長 皆川 三彦</p> <p>東京都板橋区舟渡1-9-11 TEL 03-3968-2427</p>	<p>株式会社 和 光</p> <p>代表取締役 矢倉 得正</p> <p>市川市大和田5-9-8 TEL 047-379-5719</p>
<p>株式会社 増田商店</p> <p>代表取締役 増田 唯之 専務取締役 増田 悦宏</p> <p>東京都葛飾区立石2-23-17 TEL 03-3694-8824</p>	<p>美濃紙業 株式会社</p> <p>代表取締役会長 近藤 勝 代表取締役社長 近藤 行輝</p> <p>東京都足立区千住東2-23-3 TEL 03-3882-4922</p>	



の後記
編集人

みなさま、あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願ひいたします。

さて、本年の経済情報を集めてみました。良
い一年になりそうだと私には見えています。

日本銀行の経済・物価情勢の展望 2023年10月

当面の日本経済は、海外経済回復ペースの鈍
化による下押し圧力を受けるものの、ペントア
ップ需要の顕在化などに支えられて、緩やかな
回復を続けるとみられる。その後は、所得から
支出への前向きの循環メカニズムが徐々に強ま
るも、潜在成長率を上回る成長を続けると
考えられる。

ペントアップ需要とは、景気後退期に購買行
動を一時的に控えていた消費者の需要が、景気
回復期に一気に回復すること。潜在成長率とは、
企業の生産活動に必要な資本ストックや労働力
を過不足なく活用した場合に達成しうる経済成
長率のこと。

2024年もインフレは止まらない

IMFによる日本のインフレ見通しでは、2023
年のインフレ率+3.2%、2024年+3.4%。2022の
インフレ率は年0.9%だった。0.9%、3.2%、3.4%
とインフレは激化する。

アメリカのインフレ見通しでは、2023年6.9%、
2024年5.8%。2022年は8.7%だった。8.7%、6.9%、
5.8%とインフレは鈍化する。

世界経済のインフレ見通しでは2023年のイン
フレ率+7%、2024年+4.9%。2022年のインフレ
率は+8.7%だった。8.7%、7.0%、4.9%とインフレ
は鈍化する。

2024年も賃金引上げがつづく

厚生労働省による賃上げ率の見通しは、2023
年+3.6%、2024年+3.7%。2022年の賃上げ率
は+2.1%だった。

2024年には実質賃金が増加する

19か月連続して減少している実質賃金（2022
年4月以降2023年10月まで）は、2024年に増
加に転じる見通し。【実質賃金指数の計算式】実
質賃金指数 = 名目賃金 ÷ 消費者物価指数 × 100

日本銀行による生鮮食品を除く消費者物価の
見通し（前年比）では、2023年+2.8%、2024年
+2.8%。2022年は+2.2%だった。

2024年の原油天然ガス価格は上昇する（米国 エネルギー情報局による）

ブレント原油（バレルあたりのドル価格）の
見通しでは、2023年平均82.40\$、2024年平均
82.57\$。2022年は100.94\$だった。2022年+42.3
%、2023年-18.3%、2024年+0.2%。

天然ガス スポット価格（100万BTUあたり
のドル価格）の見通しでは、2023年平均2.56\$、
2024年平均2.79\$。2022年平均6.42\$であった。
2022年+64.1%、2023年-60.1%、2024年+8.9%。

2024年も石炭価格は下落する

日本エネルギー経済研究所による豪州石炭（一
般炭トン当たりFOBドル価格）の見通しでは、
2023年平均170\$、2024年平均130\$。2022年平均
は320\$だった。2022年+60.1%、2023年-46.3%、
2024年-23.5%。

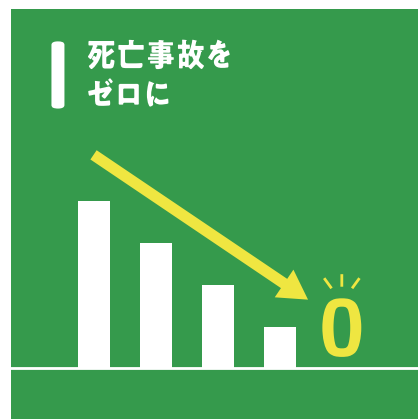
	2022年	2023年	2024年
インフレ率 日本	+0.9%	+3.2%	+3.4%
インフレ率 アメリカ	+8.7%	+6.9%	+5.8%
インフレ率 世界	+8.7%	+7.0%	+4.9%
消費者物価指数 日本	+2.3%	+2.8%	+2.8%
賃上げ率 日本	+2.1%	+3.6%	+3.7%
ブレント原油	+42.3%	-18.3%	+0.2%
天然ガス	+64.1%	-60.1%	+8.9%
豪州石炭	+60.1%	-46.3%	-23.5%

（編集人／斎藤大介）

すべての組合員のゼロ災の達成を目指す目標

令和
5
年度

SAFETY DEVELOPMENT GOALS



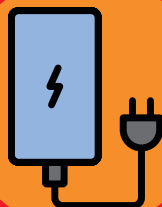
令和5年 防火月間

リチウムイオン電池の 発火トラブルが急増中

スマホ



モバイル
バッテリー



電池



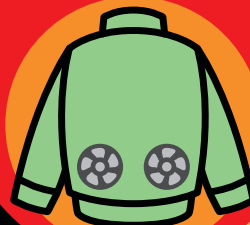
電子タバコ



工具



ファン付き作業服



電子機器の 混入に注意!



全国製紙原料商工組合連合会

ポスターの
ダウンロードは >>
こちら

